参考資料

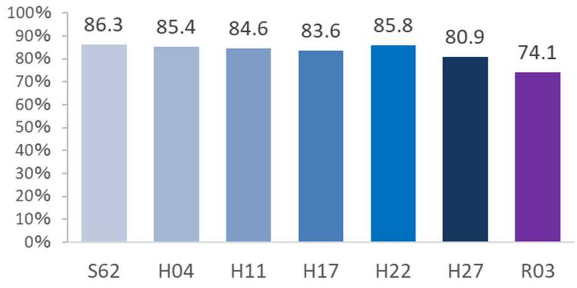
令和３年度全国都市交通特性調査結果（速報版）

1. 都市における人の動き

○ 外出率の全国平均は、平日で 74.1%、休日で 52.5%である。
○ トリップ原単位の全国平均は、平日で 1.96、休日で 1.47 である。
○ 外出率、トリップ原単位は年々減少している。
○ 年齢階層別の外出率・トリップ原単位は、平日は 59 歳以下、休日は 69 歳以下で平成 27 年よりも減少している。

■全国の外出率（%）

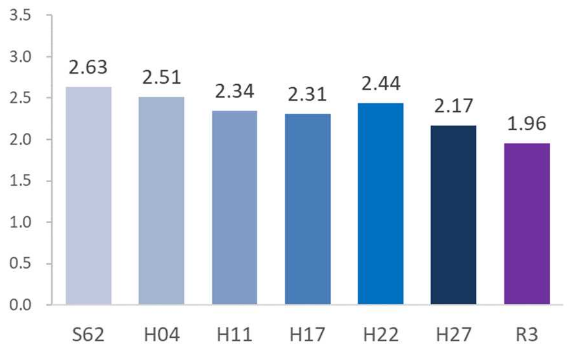
【平日】



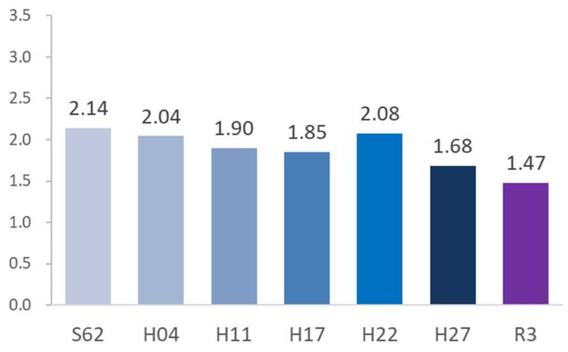
【休日】

■全国のトリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】

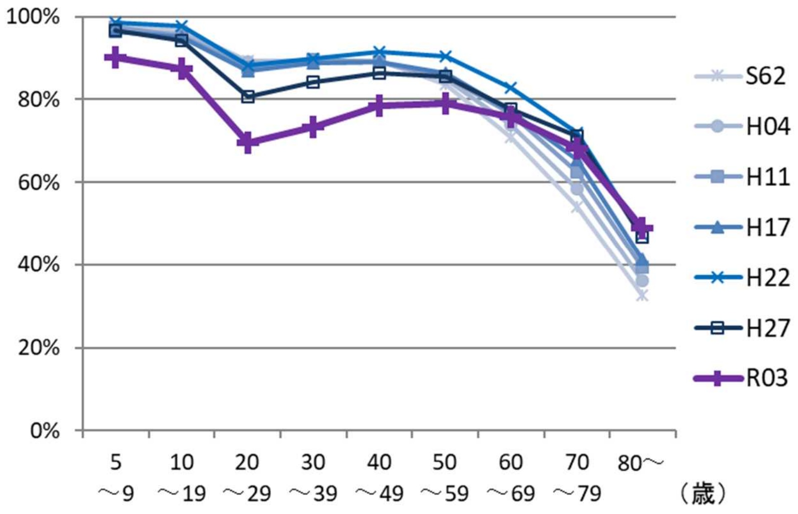


【休日】

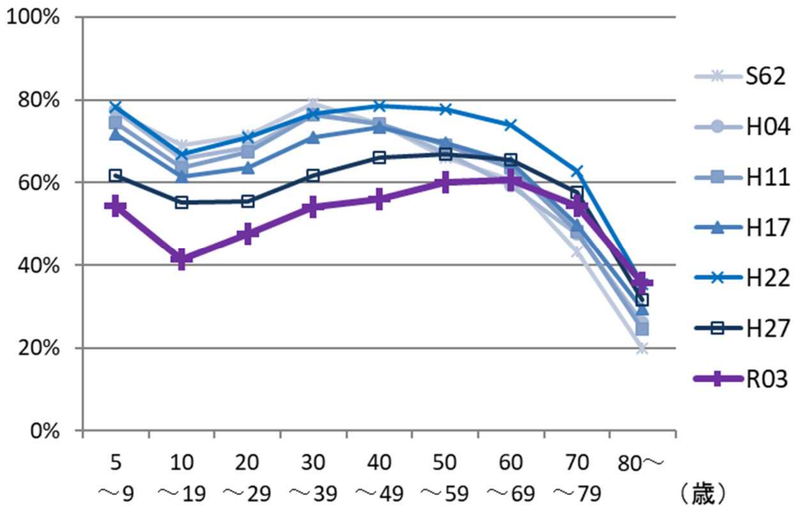


■全国の年齢階層別外出率（%）

【平日】

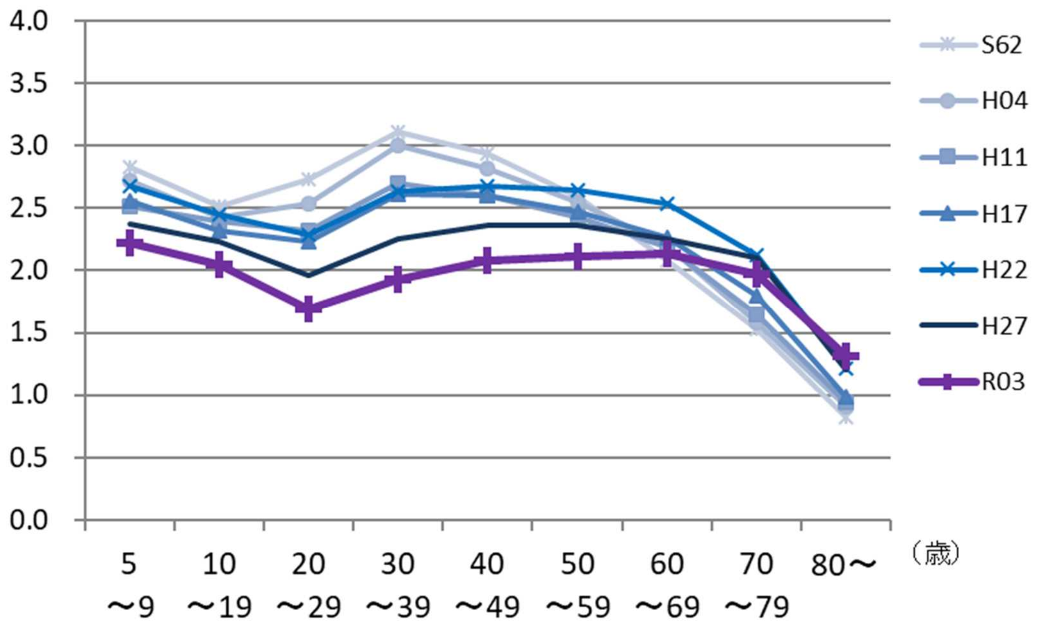


【休日】

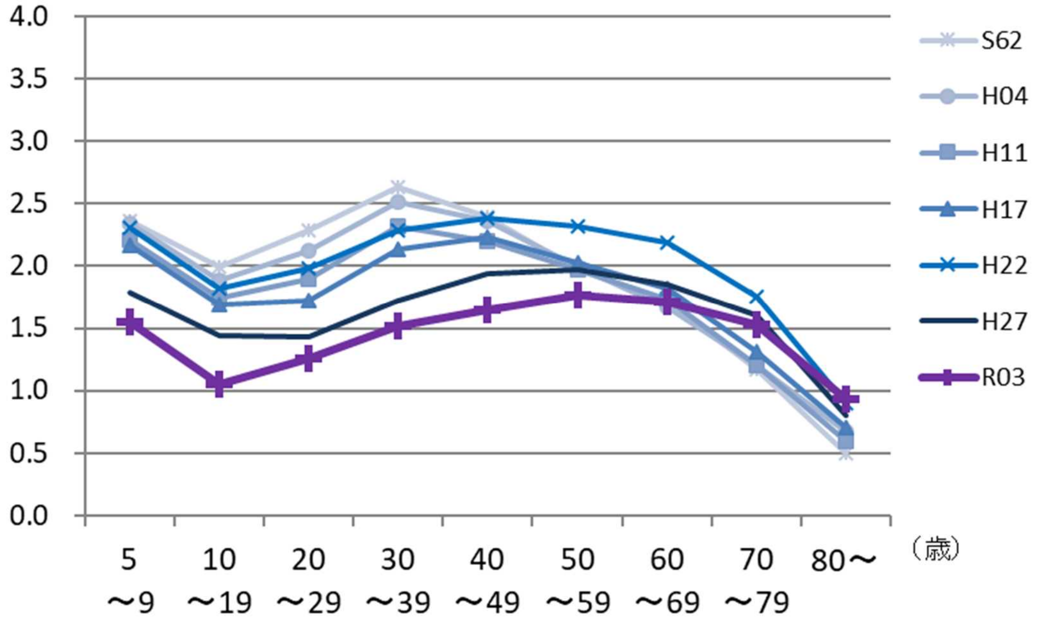


■全国の年齢階層別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】



【休日】

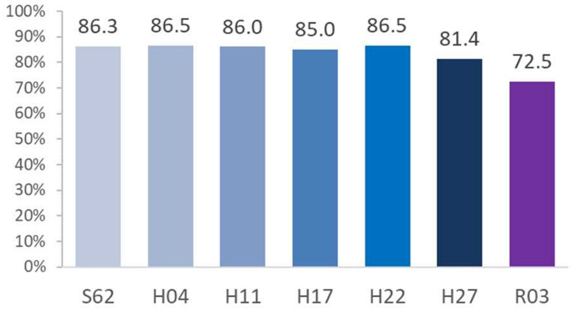


○　三大都市圏の外出率は平日 72.5%、休日 51.9%、地方都市圏では平日 75.8%、休日 53.3% である。
○　三大都市圏・地方都市圏とも、平日・休日とも、外出率は減少傾向にある。
○　平日においては、平成 27 年から令和 3 年にかけて、三大都市圏で大幅に減少し、地方都市圏の外出率が三大都市圏を上回った。

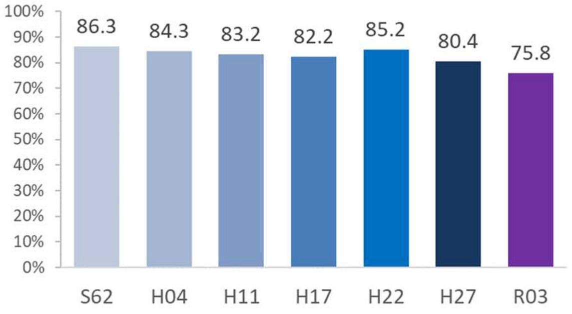
■都市圏別の外出率（%）

【平日】

三大都市圏

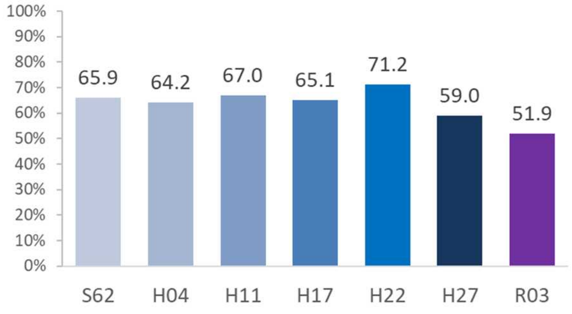


地方都市圏

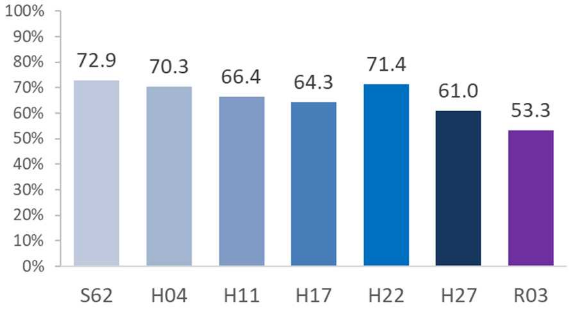


【休日】

三大都市圏



地方都市圏



○　三大都市圏のトリップ原単位は平日 1.89、休日 1.41 である。地方都市圏では平日 2.03、休日 1.55 である。

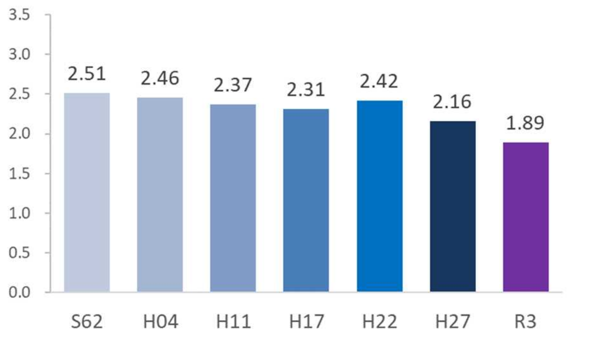
○　三大都市圏・地方都市圏とも、平日・休日とも、トリップ原単位は年々減少している。

○　平成 27 年から令和 3 年にかけては、平日・休日とも、三大都市圏の方が地方都市圏よりもトリップ原単位の減少幅が大きい。

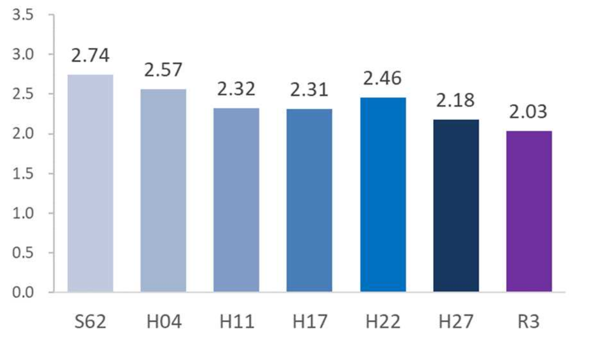
■都市圏別のトリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】

三大都市圏

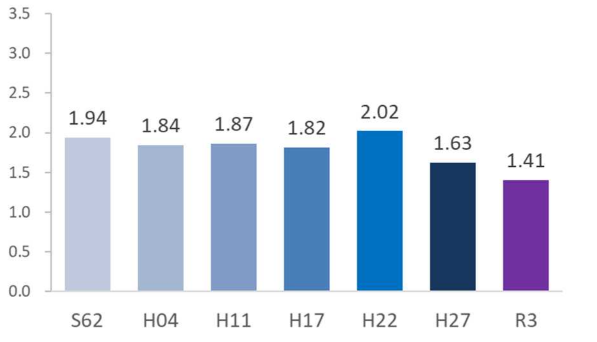


地方都市圏

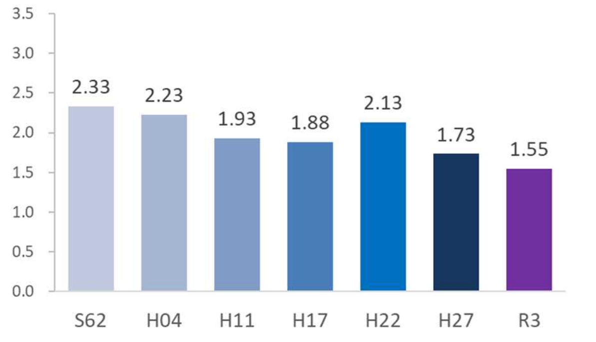


【休日】

三大都市圏



地方都市圏



○ 平成 27 年から令和 3 年にかけては、三大都市圏・地方都市圏とも、平日・休日とも、男性・女性問わず殆どの年齢階層でトリップ原単位が減少している。

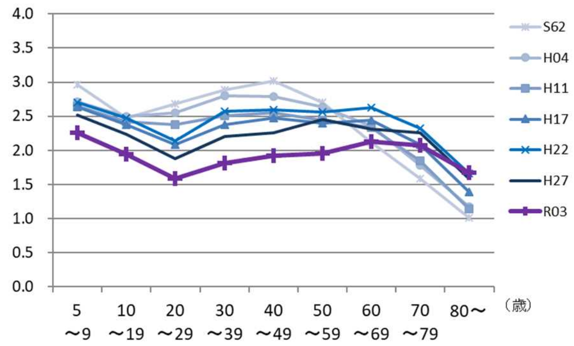
○ 平日においては、特に生産年齢人口にあたる年齢階層で大きく減少している。休日においても概ね同様の傾向にあるが、20 代・30 代男性は減少幅が比較的小さい。

○ 80 歳以上のトリップ原単位は微増である。

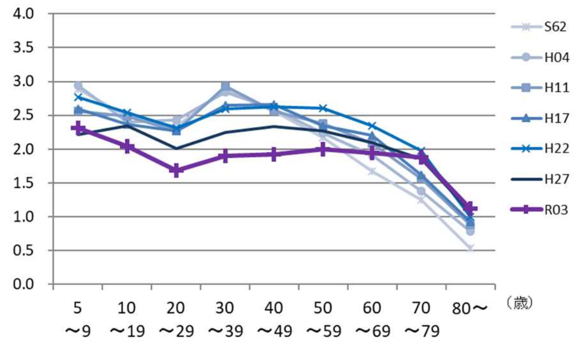
■都市圏別の年齢階層別・男女別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】

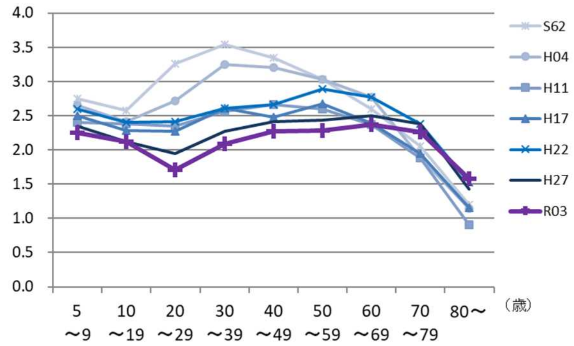
三大都市圏（男性）



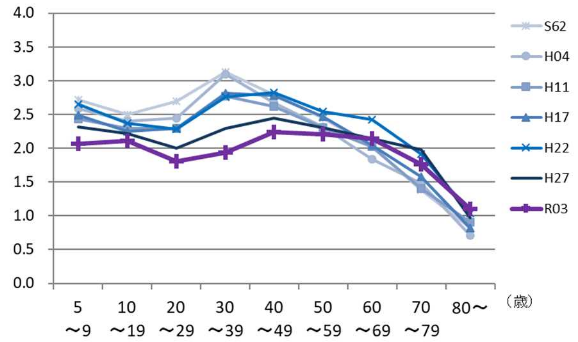
三大都市圏（女性）



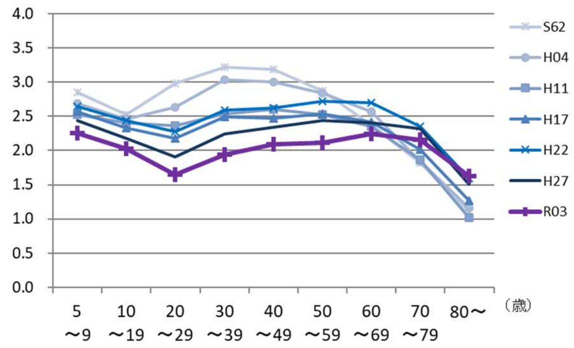
地方都市圏（男性）



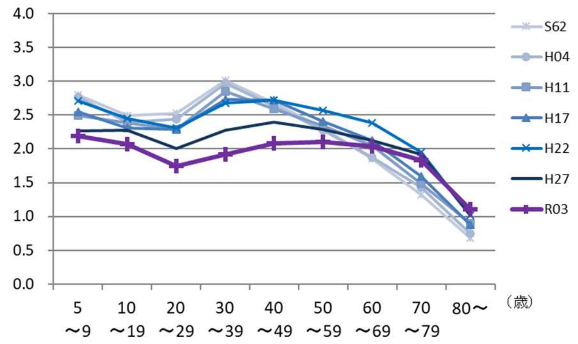
地方都市圏（女性）



全国（男性）

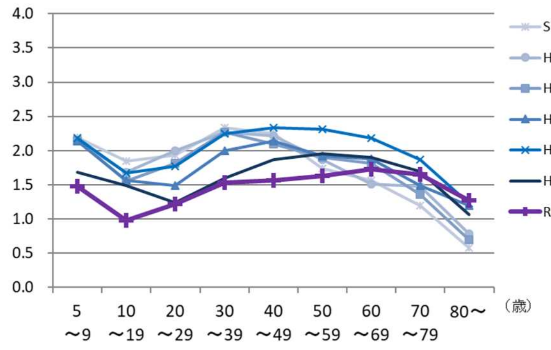


全国（女性）

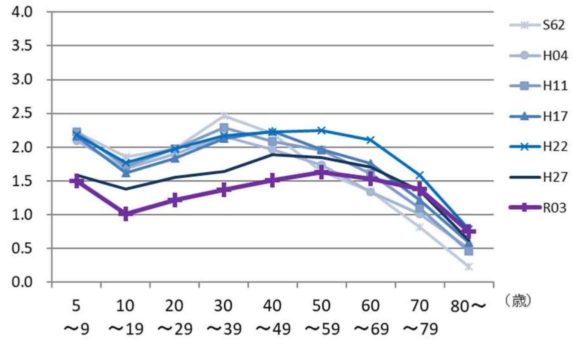


【休日】

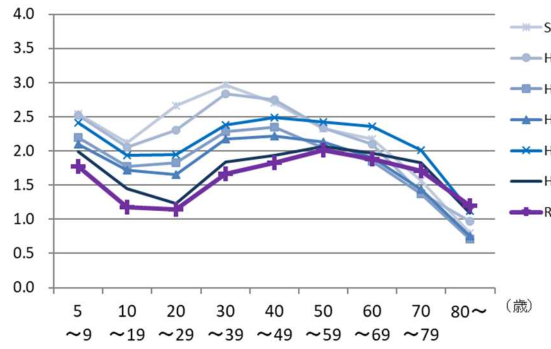
三大都市圏（男性）



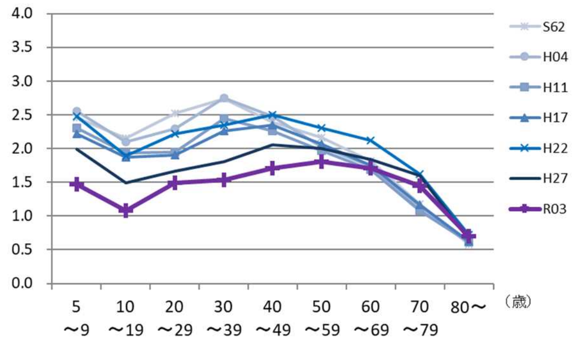
三大都市圏（女性）



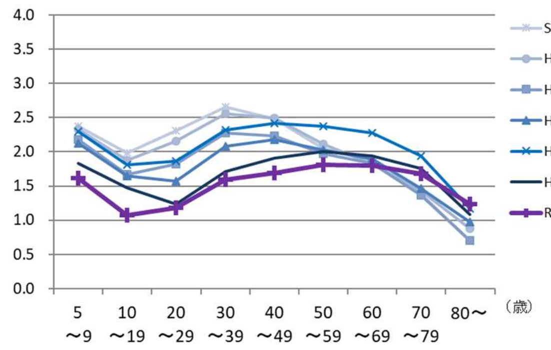
地方都市圏（男性）



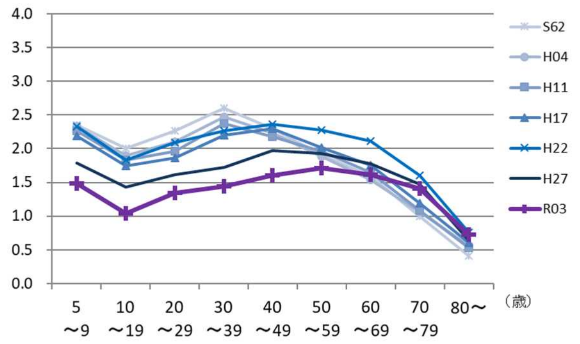
地方都市圏（女性）



全国（男性）



全国（女性）



2. 交通手段の利用状況

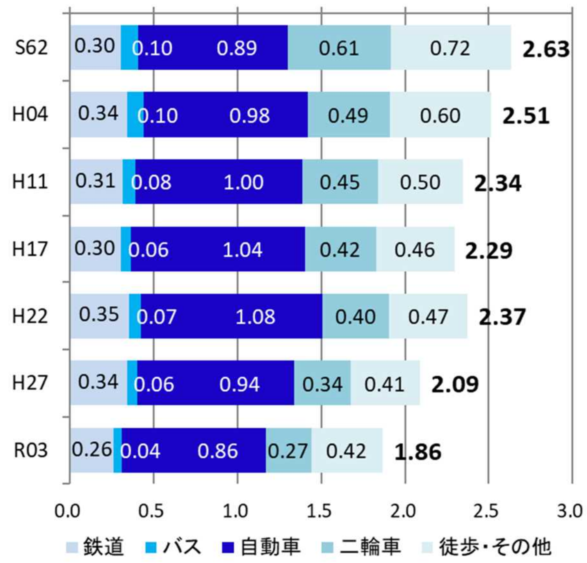
○ 平日・休日ともに、平成 22 年以降、トリップ原単位は殆どの交通手段で減少している。

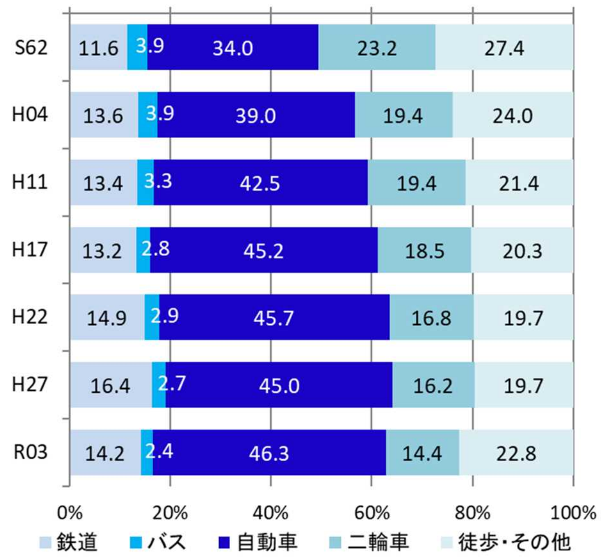
○ 平日・休日ともに、平成 17 年から平成 27 年にかけて増加傾向にあった鉄道の分担率が令和 3 年には減少に転じたほか、平成 27 年から令和 3 年にかけて、自動車の分担率は微増、徒歩・その他は増加している。

■全国の代表交通手段別トリップ原単位（トリップ数／人・日）・分担率（%）

【平日】

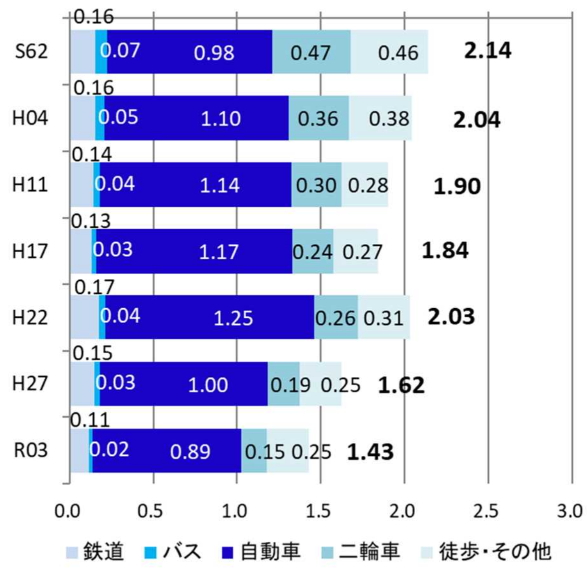
トリップ原単位	分担率

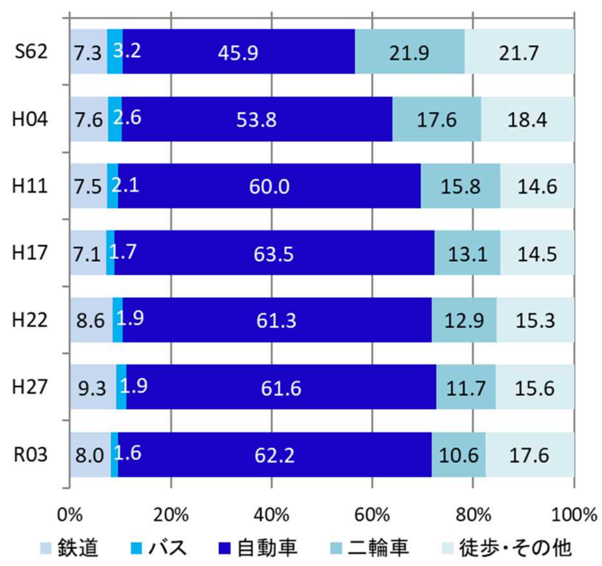




【休日】

トリップ原単位	分担率





○　三大都市圏では、平成 27 年から令和３年にかけて、平日・休日とも、徒歩・その他を除く全ての交通手段でトリップ原単位が減少しており、特に、平日における鉄道で顕著である。分担率については、鉄道が平日・休日とも減少、自動車が平日で横ばい、休日で減少している。

○　地方都市圏では、平成 22 年以降、平日・休日とも、全ての交通手段でトリップ原単位が減少傾向にある。自動車の分担率は、平日では年々増加しており、休日では平成 17 年以降概ね横ばいであったものから、令和 3 年では増加に転じた。

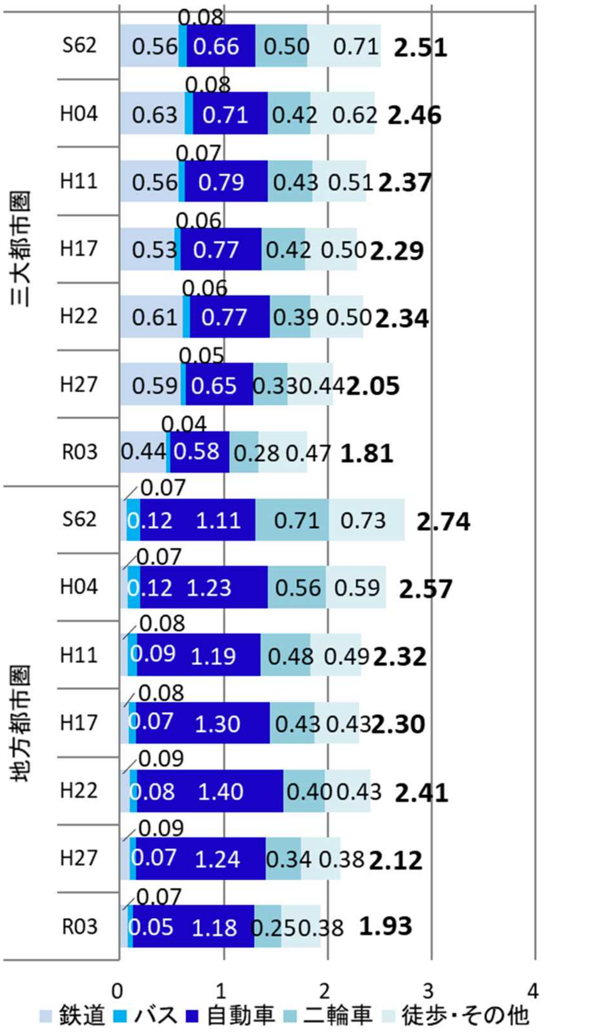
○　平日・休日とも、三大都市圏よりも地方都市圏の方が自動車の分担率が高い。

○　三大都市圏・地方都市圏とも、平日よりも休日の方が自動車の分担率が高い。

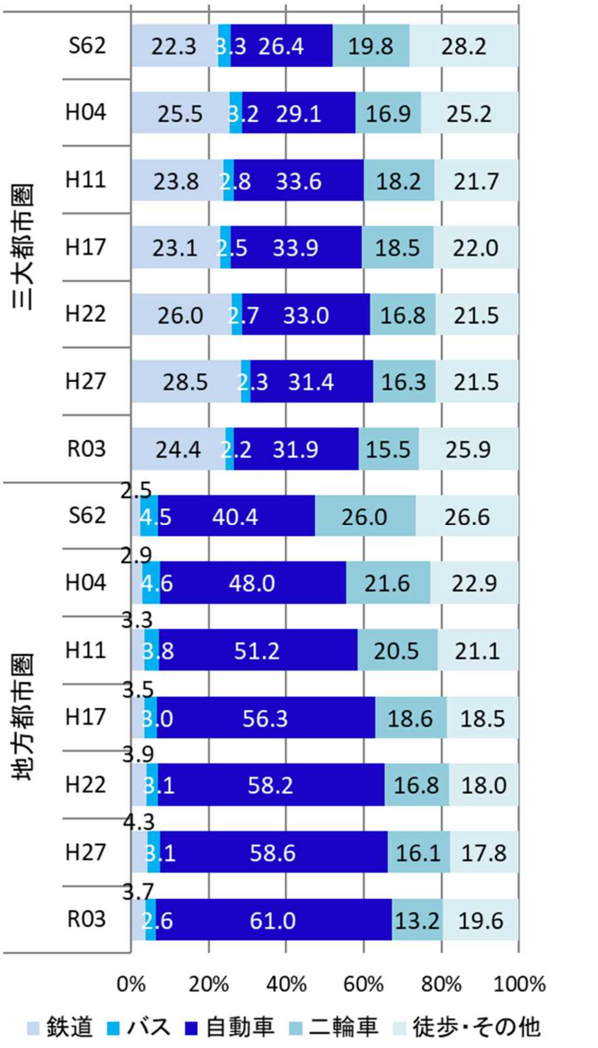
■都市圏別の代表交通手段別トリップ原単位（トリップ数／人・日）・分担率（%）

【平日】

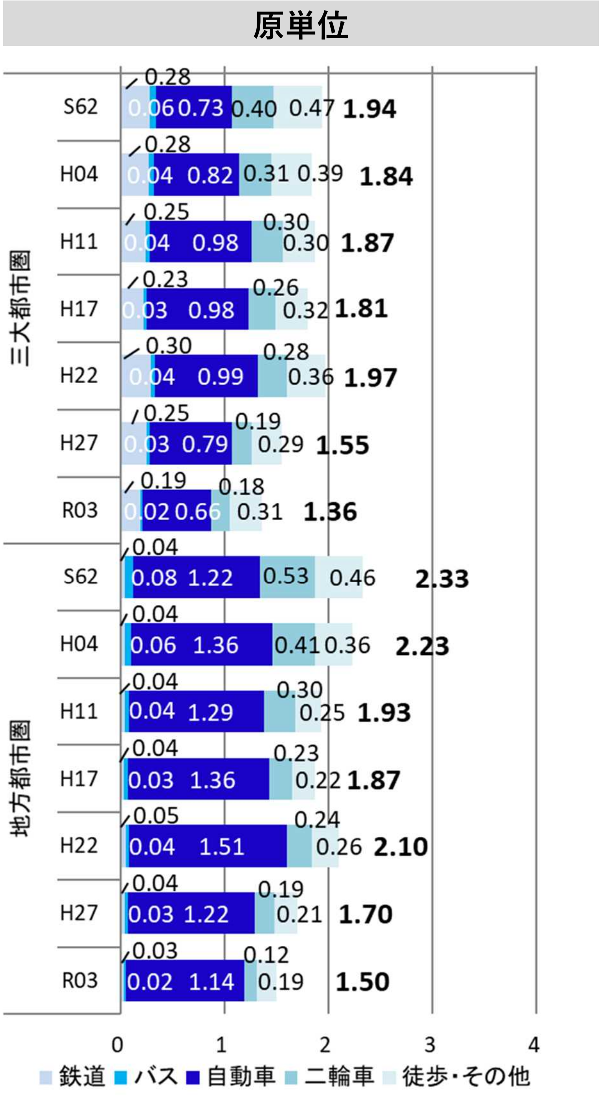
トリップ原単位

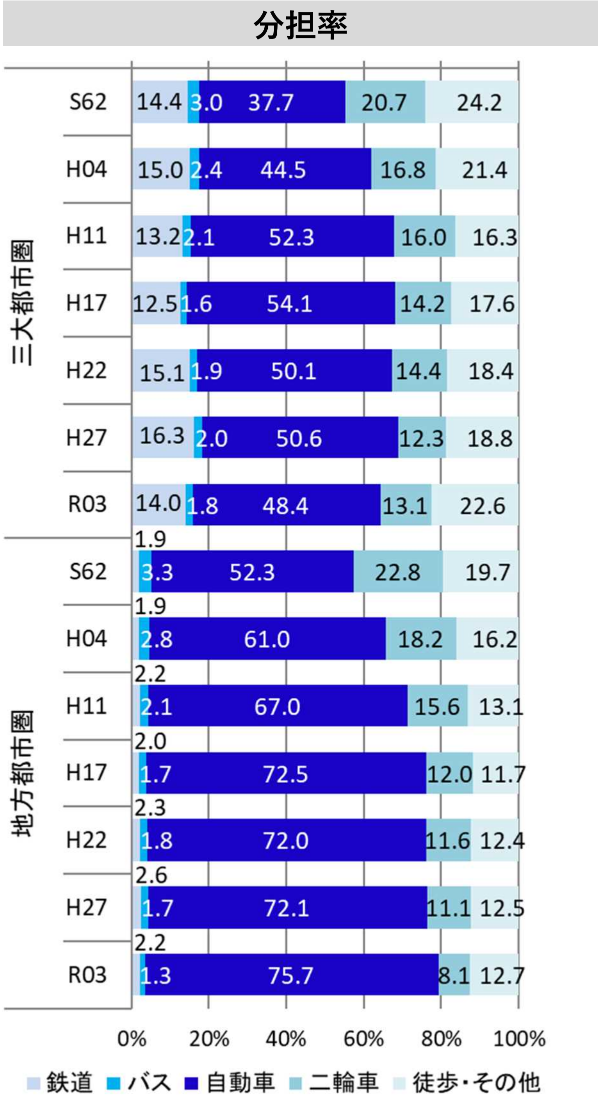


分担率



【休日】


原単位
三大都市圏
地方都市圏
S62
H04
H11
H17
H22
H27
R03
1.94
1.84
1.87
1.81
1.97
1.55
1.36
2.33
2.23
1.93
1.87
2.10
1.70
1.50
0
1
2
3
4
鉄道 バス 自動車 二輪車 徒歩・その他

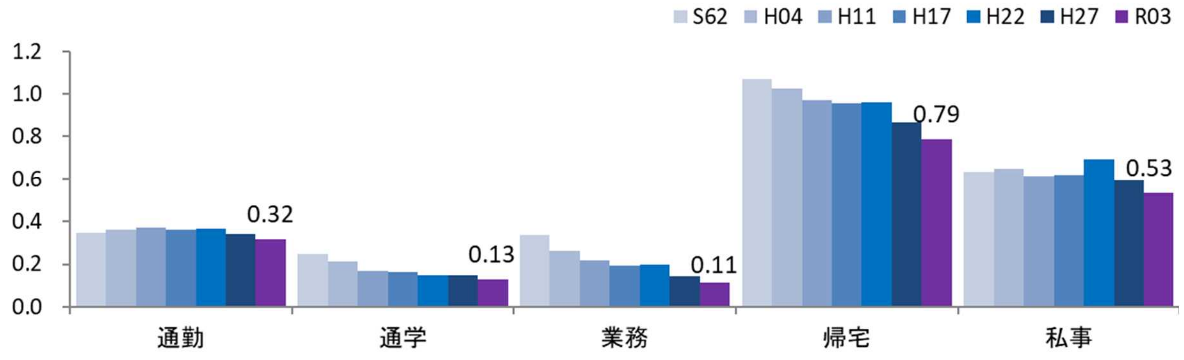

分担率
三大都市圏
地方都市圏
S62
H04
H11
H17
H22
H27
R03
0%
20%
40%
60%
80%
100%
鉄道 バス 自動車 二輪車 徒歩・その他

3. 移動目的からみた人の動き

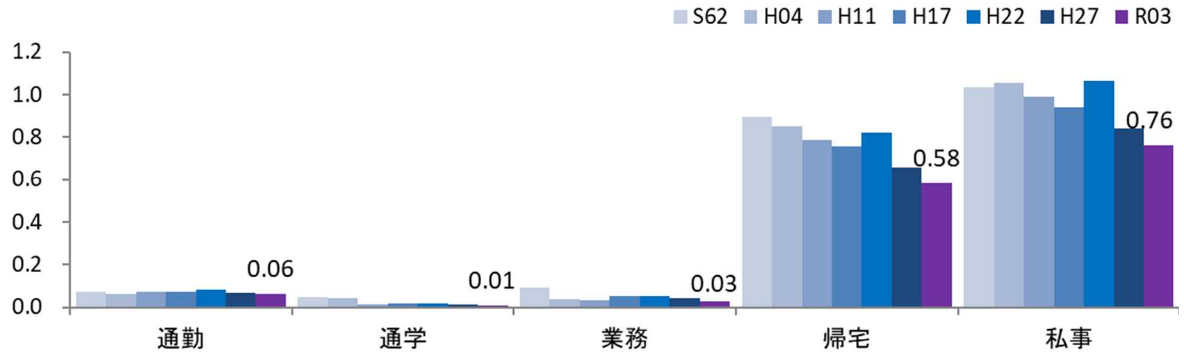
○ 平成 27 年から令和３年にかけて、平日、休日とも全ての目的でトリップ原単位の全国平均が減少している。
○ 平日の通勤目的トリップ原単位は三大都市圏で減少、地方都市圏で横ばいである。
○ 平日・休日とも、ほぼ全ての目的で地方都市圏のトリップ原単位が三大都市圏を上回っている。

■全国の移動目的別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】



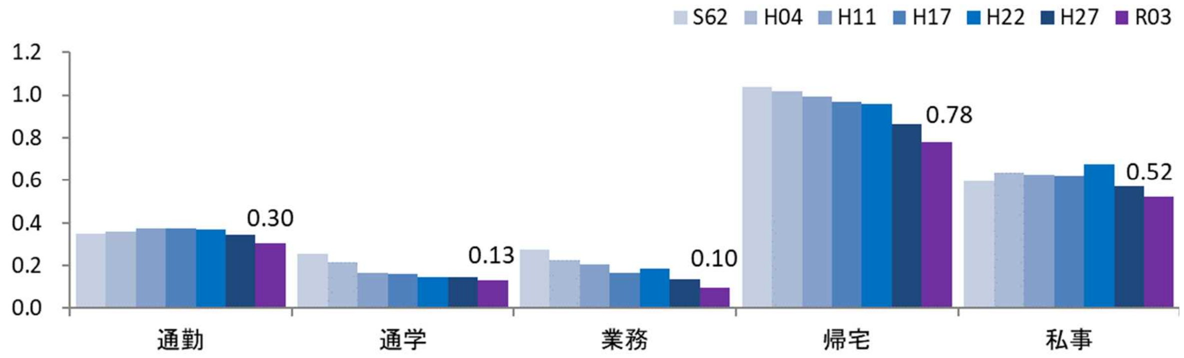
【休日】



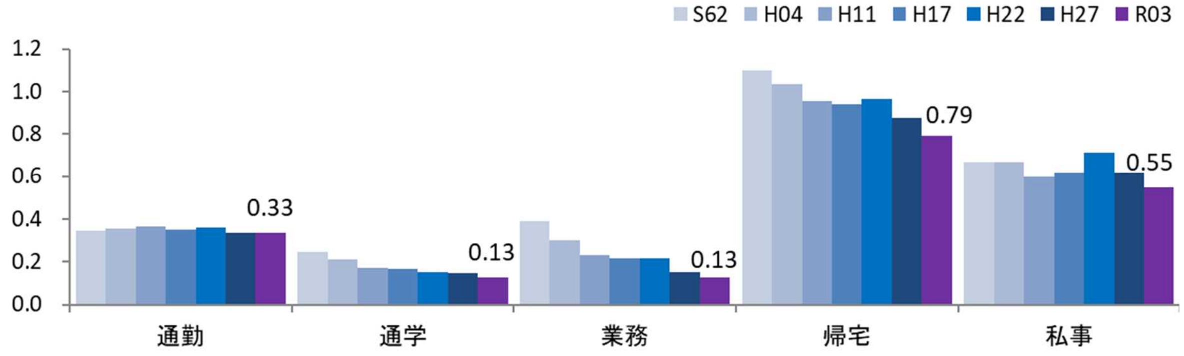
■都市圏別の移動目的別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】

三大都市圏

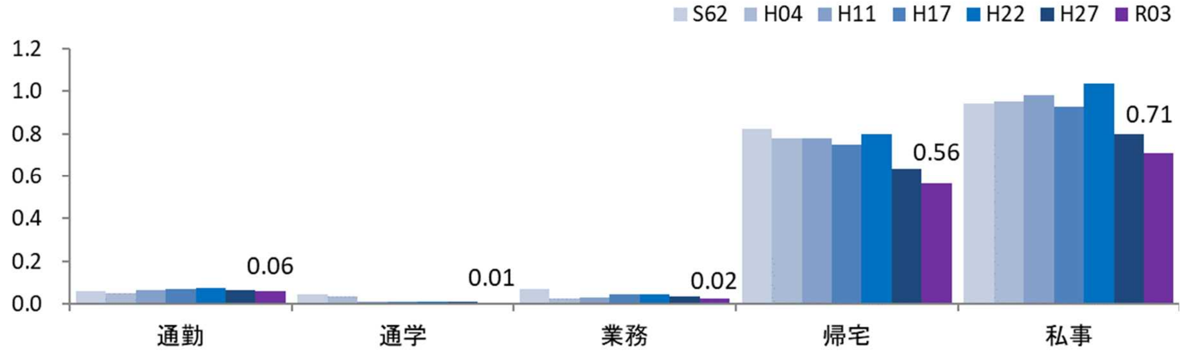


地方都市圏

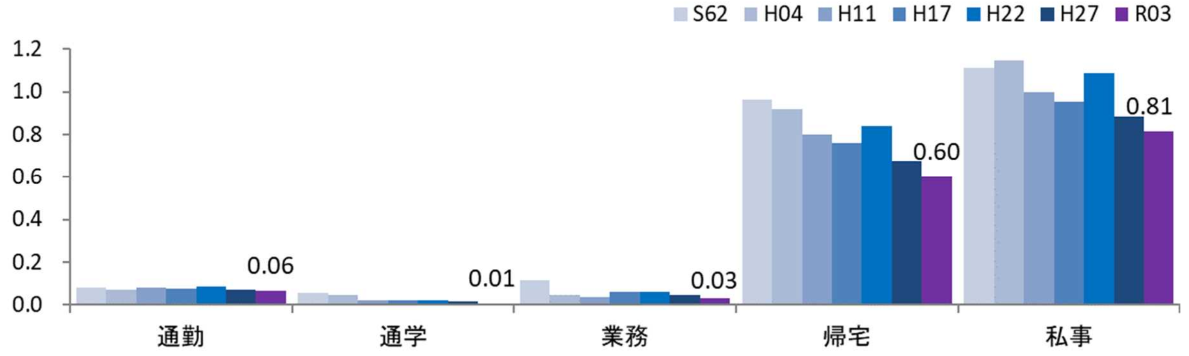


【休日】

三大都市圏



地方都市圏

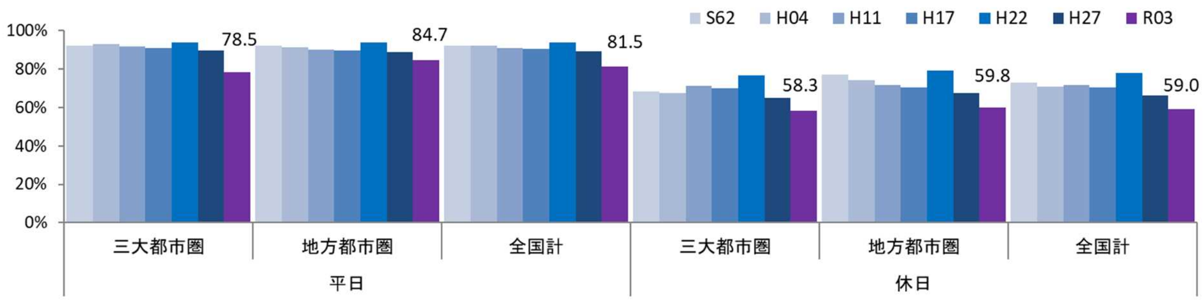


4. 就業状況からみた人の動き

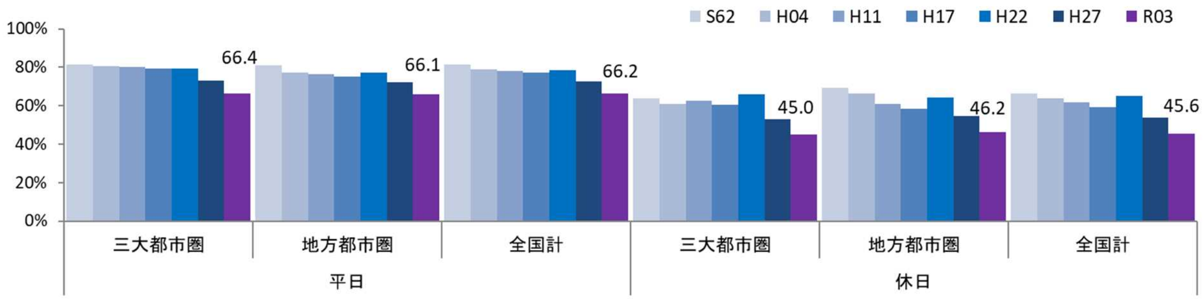
○　平日・休日とも、就業者と比較して非就業者の外出率・トリップ原単位が低い傾向にある。
○　平成 27 年から令和３年にかけては、就業・非就業を問わず外出率・トリップ原単位は減少している。
○　平日・休日とも、79 歳以下のほぼ全ての年齢階層において就業・非就業を問わずトリップ原単位が減少している。

■都市圏別の就業状況別外出率（%）

就業

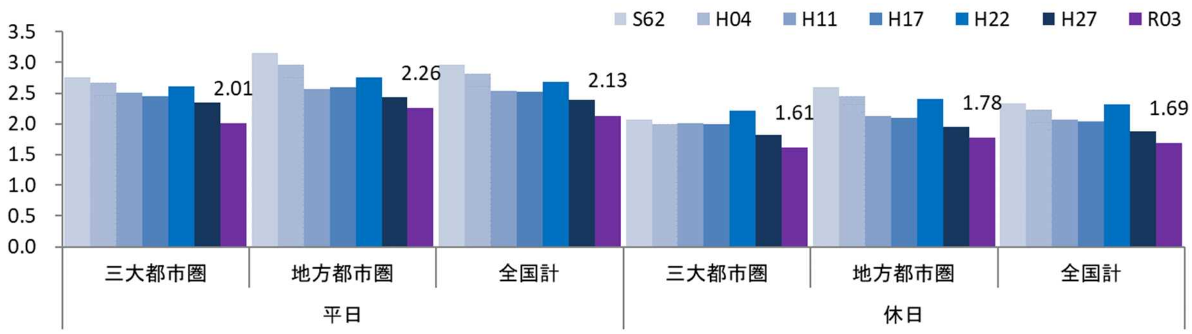


非就業

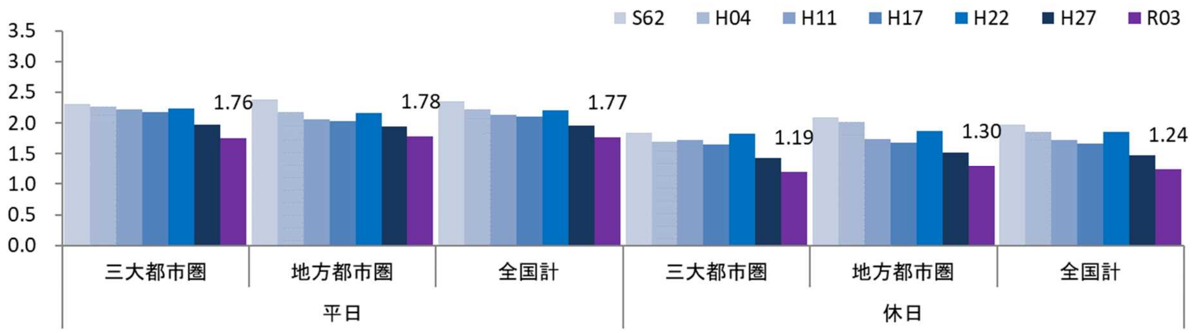


■都市圏別の就業状況別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

就業



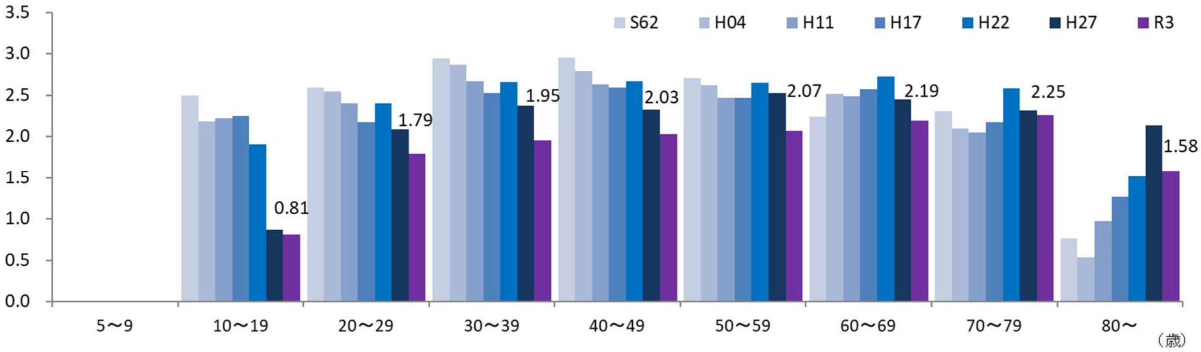
非就業



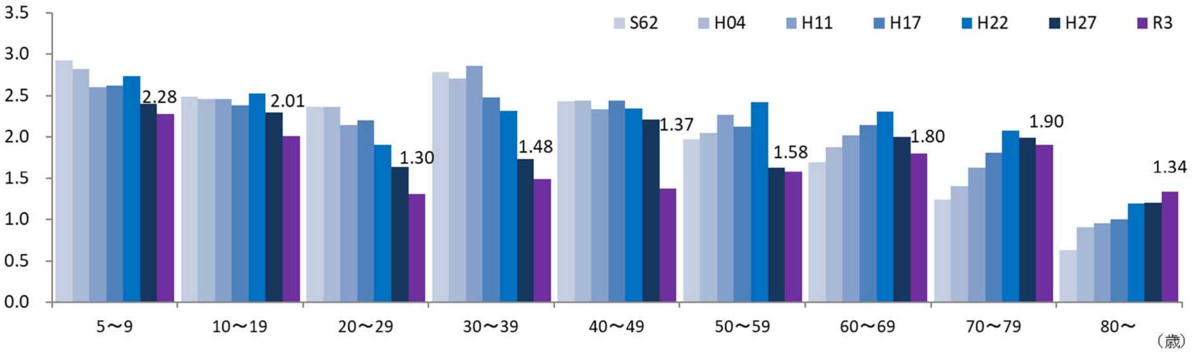
■都市圏別の年齢階層別・就業／非就業別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

【平日】

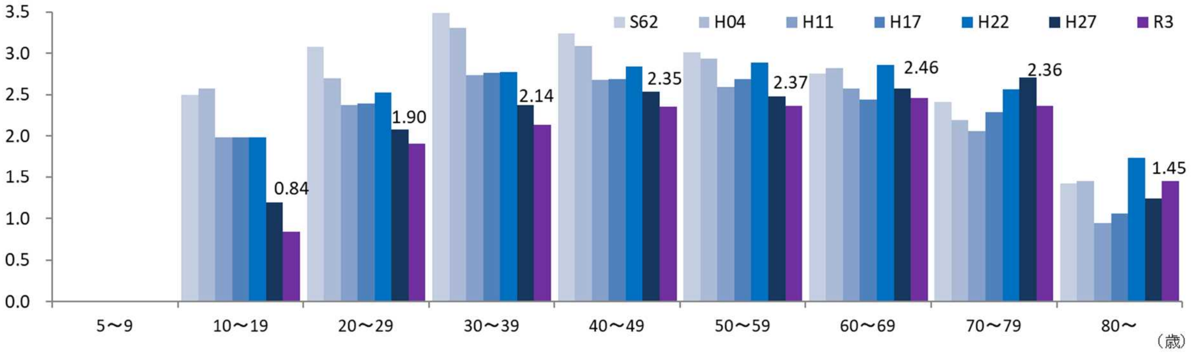
三大都市圏　就業



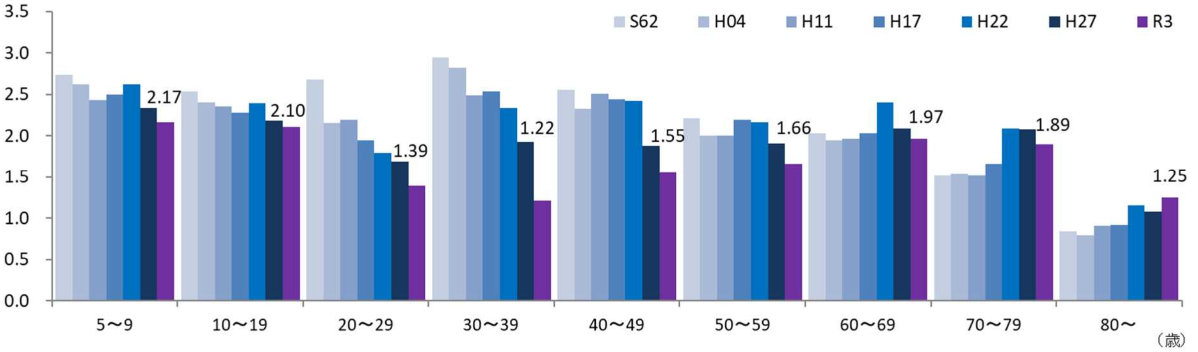
三大都市圏　非就業



地方都市圏　就業

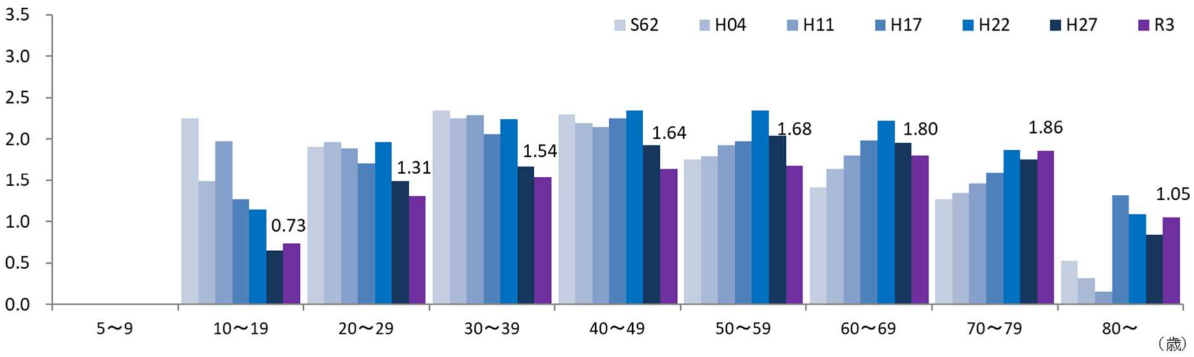


地方都市圏　非就業

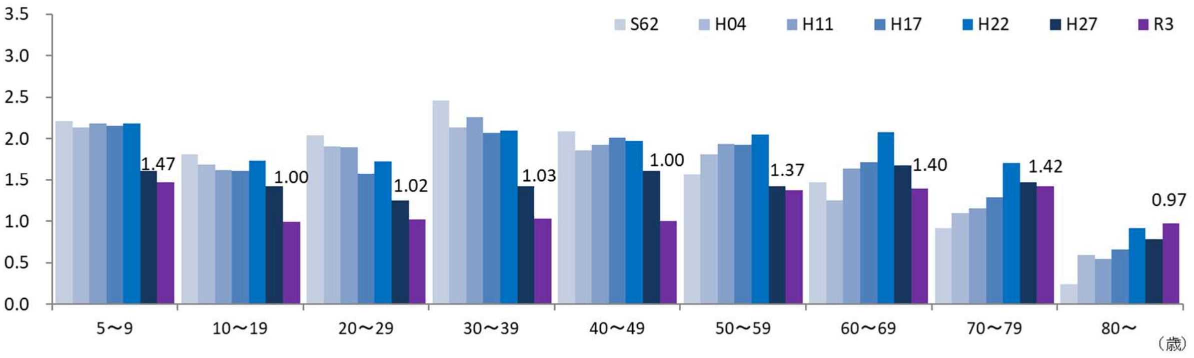


【休日】

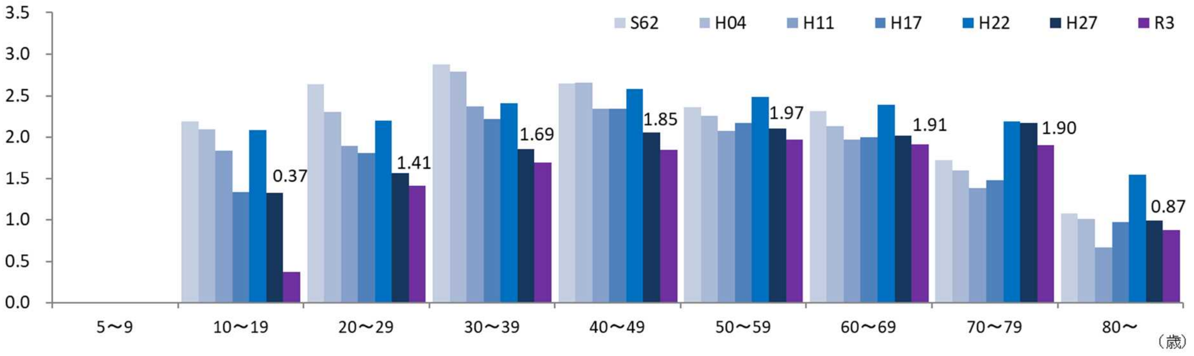
三大都市圏　就業



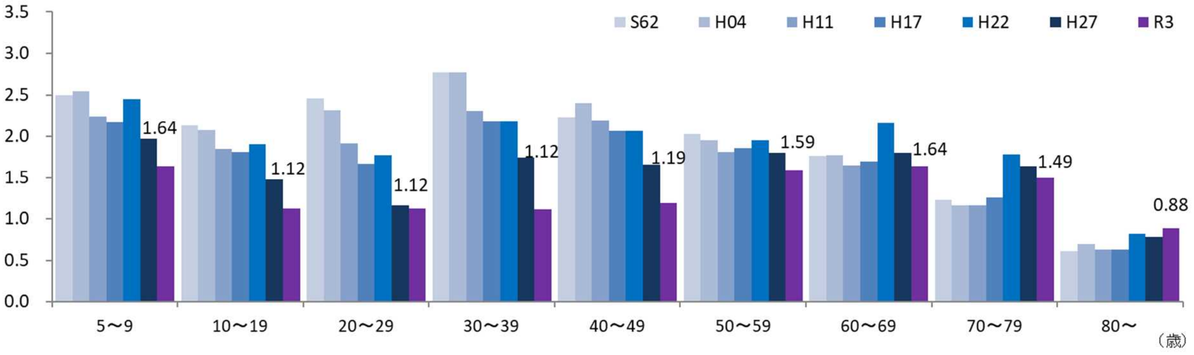
三大都市圏　非就業



地方都市圏　就業



地方都市圏　非就業



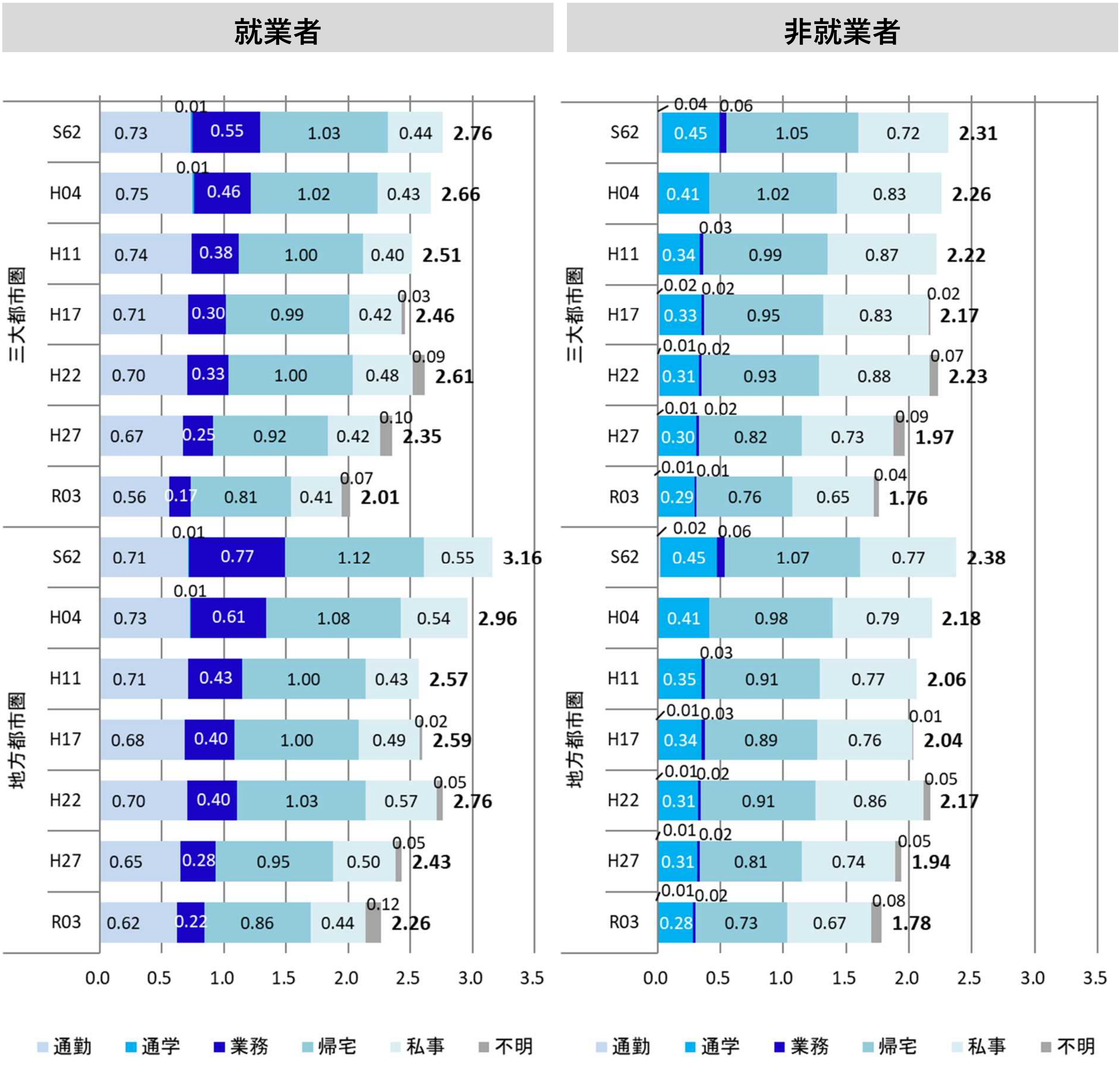
■都市圏別の就業／非就業別・移動目的別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

○　三大都市圏・地方都市圏とも、平日における就業者の通勤・業務目的トリップ原単位は減少しており、特に三大都市圏で顕著である。平日における就業者の私事目的トリップ原単位は、地方都市圏の減少幅が大きい。

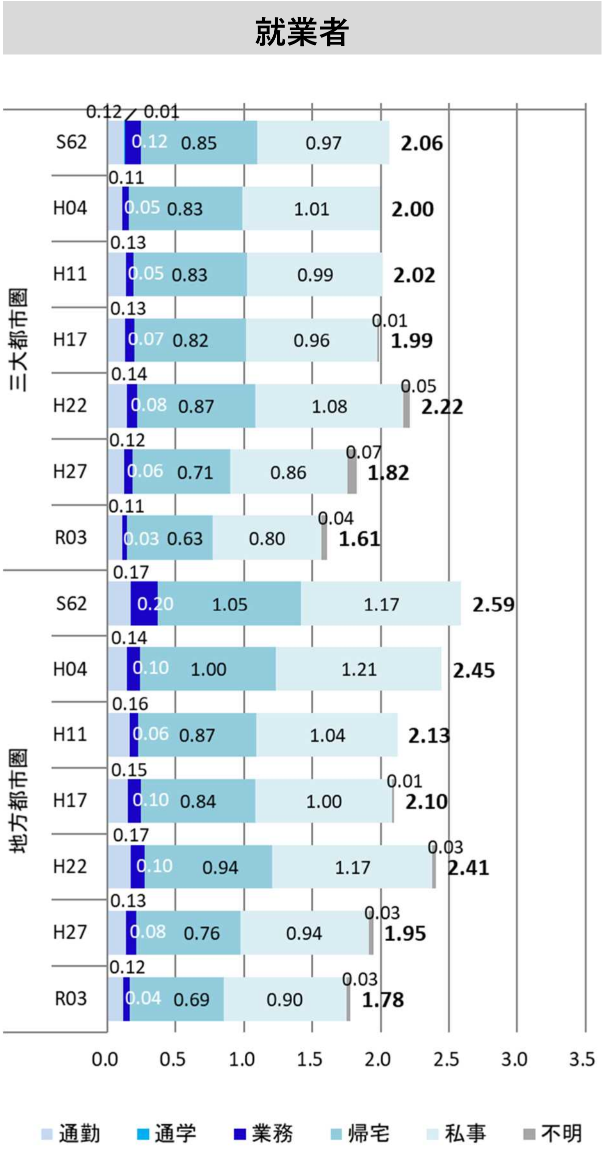
○　三大都市圏・地方都市圏とも、休日における就業者のトリップ原単位は、全ての目的で減少している。

○　平日・休日とも、三大都市圏・地方都市圏とも、全ての目的で非就業者のトリップ原単位は減少している。

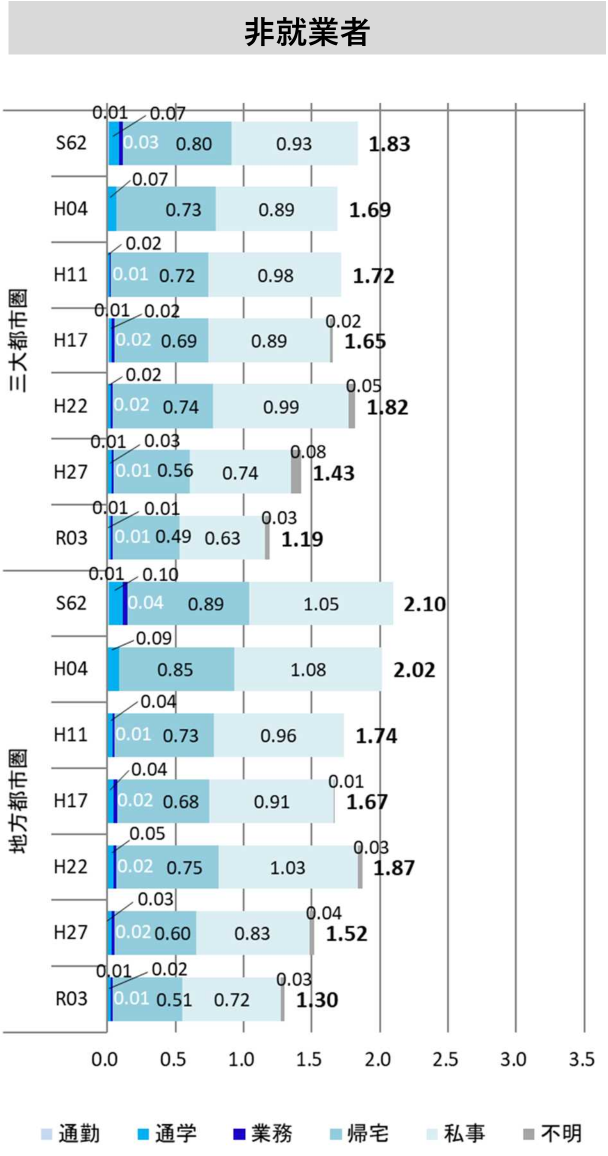
【平日】



【休日】



就業者
三大都市圏
地方都市圏
S62
H04
H11
H17
H22
H27
R03
0.0
0.5
1.0
1.5
2.0
2.5
3.0
3.5
通勤
通学
業務
帰宅
私事
不明

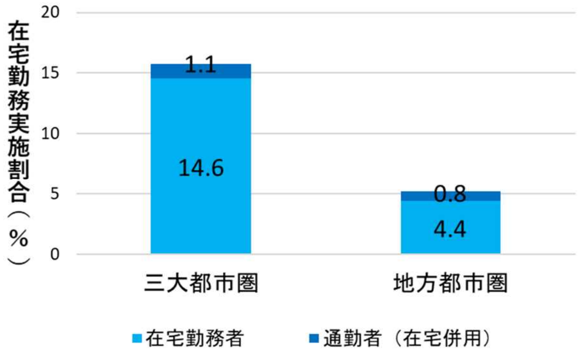


非就業者
三大都市圏
地方都市圏
S62
H04
H11
H17
H22
H27
R03
0.0
0.5
1.0
1.5
2.0
2.5
3.0
3.5
通勤
通学
業務
帰宅
私事
不明

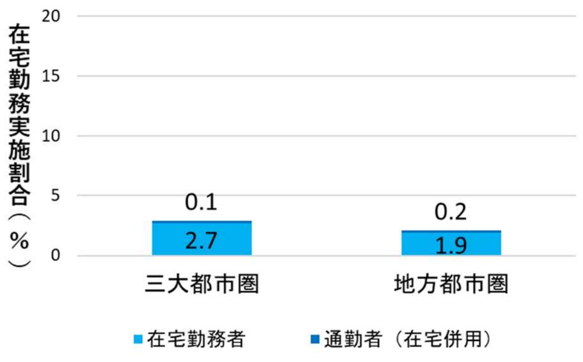
■都市圏別の就業者の在宅勤務実施割合（%）

○　平日における就業者の在宅勤務実施割合は、三大都市圏が地方都市圏を大きく上回る。休日においても、僅差ではあるが、平日と同様の傾向である。

【平日】



【休日】



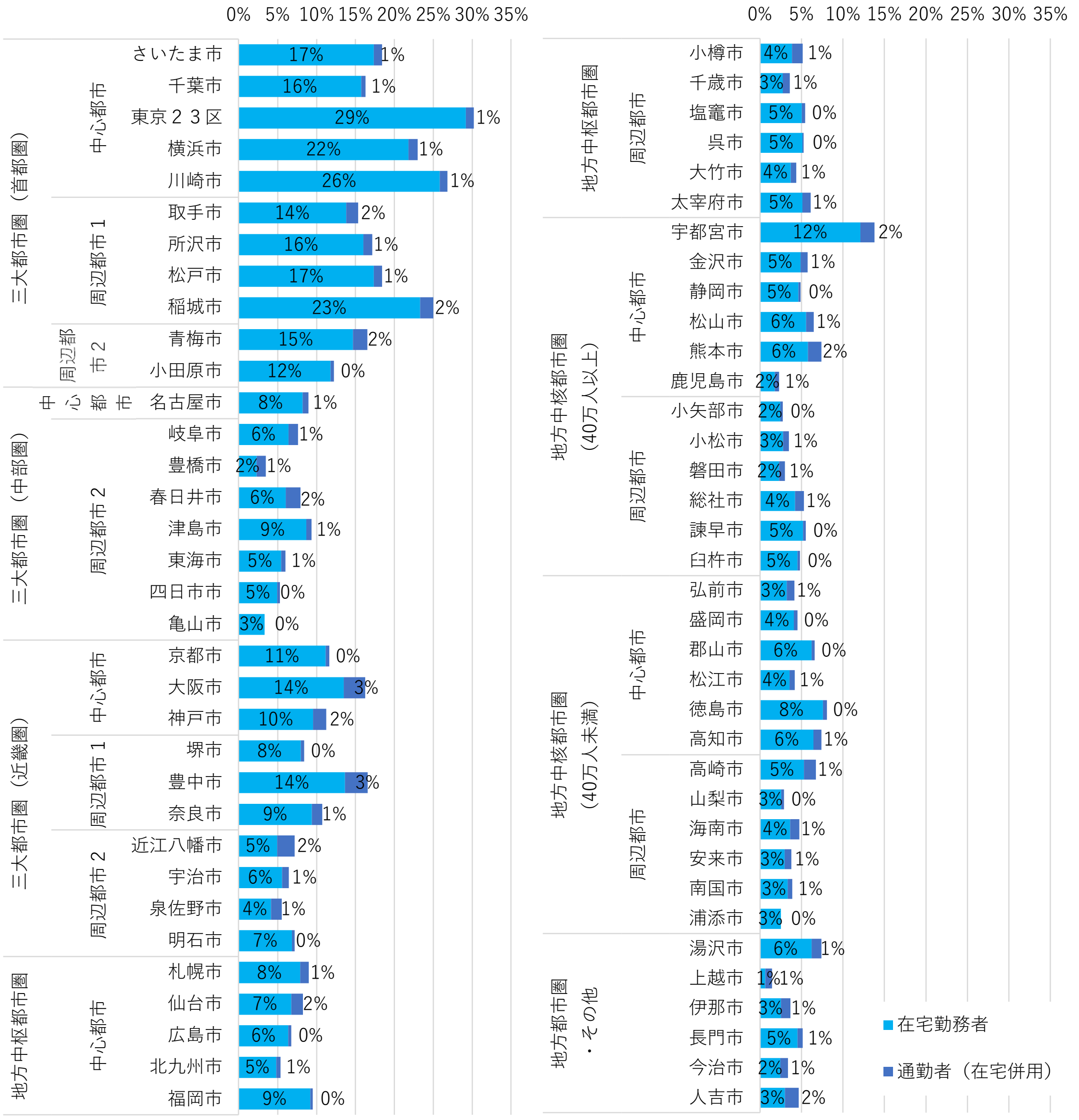
※在宅勤務者：その日一度も勤務先に行くことなく在宅勤務をした就業者

※通勤者（在宅併用）：その日在宅勤務をし、勤務先にも行った就業者

■都市別の就業者の在宅勤務実施割合（%）

○　平日における就業者の在宅勤務実施割合は、三大都市圏の中でも特に首都圏が中部圏・近畿圏と比べても高い傾向にある。

【平日】



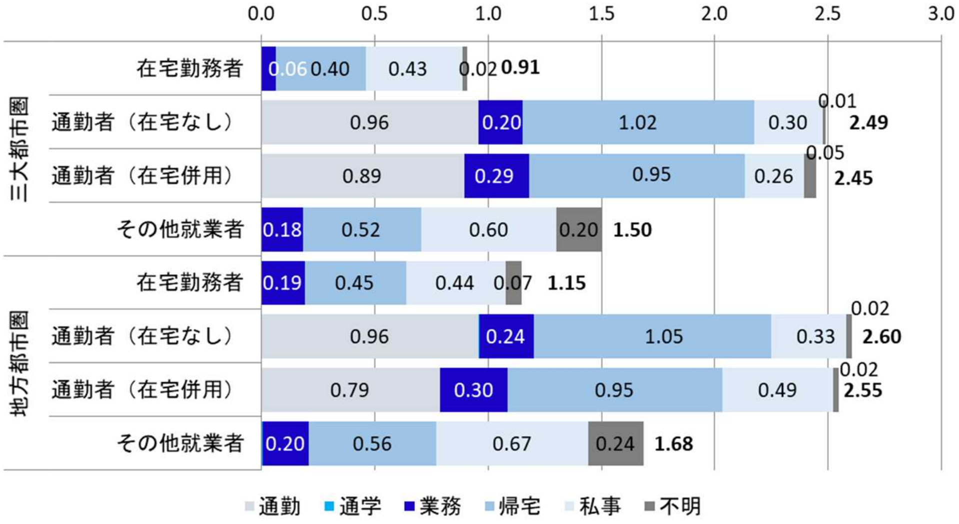
※在宅勤務者：その日一度も勤務先に行くことなく在宅勤務をした就業者

※通勤者（在宅併用）：その日在宅勤務をし、勤務先にも行った就業者

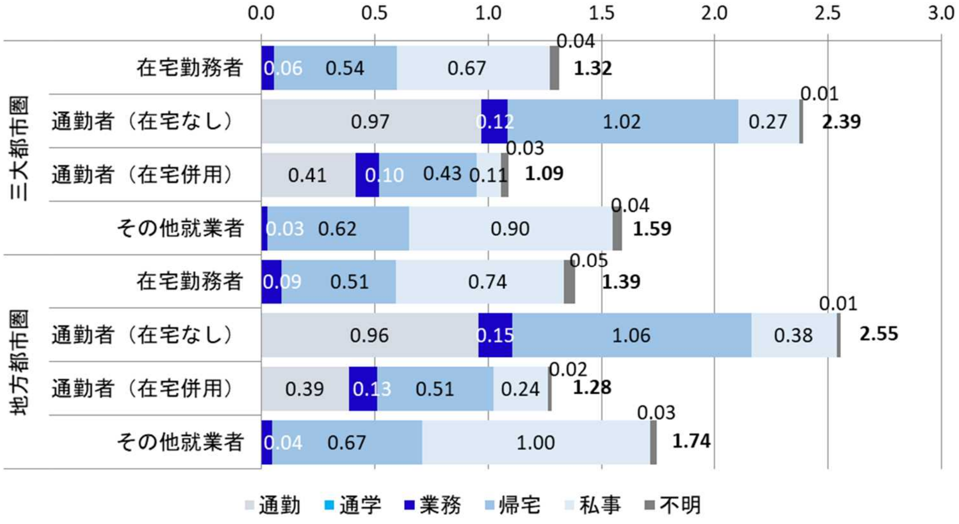
■都市圏別の就業者（在宅勤務有無別）の移動目的別トリップ原単位（トリップ数／人・日）

○　平日において、三大都市圏・地方都市圏とも、在宅勤務者は通勤目的トリップがない分、通勤者よりもトリップ原単位が小さい。一方で、通勤者（在宅なし）と比較して、在宅勤務者は私事目的トリップ原単位がやや大きい。

【平日】



【休日】



※在宅勤務者：その日一度も勤務先に行くことなく在宅勤務をした就業者

※通勤者（在宅なし）：その日在宅勤務をせず、勤務先に行った就業者

※通勤者（在宅併用）：その日在宅勤務をし、勤務先にも行った就業者

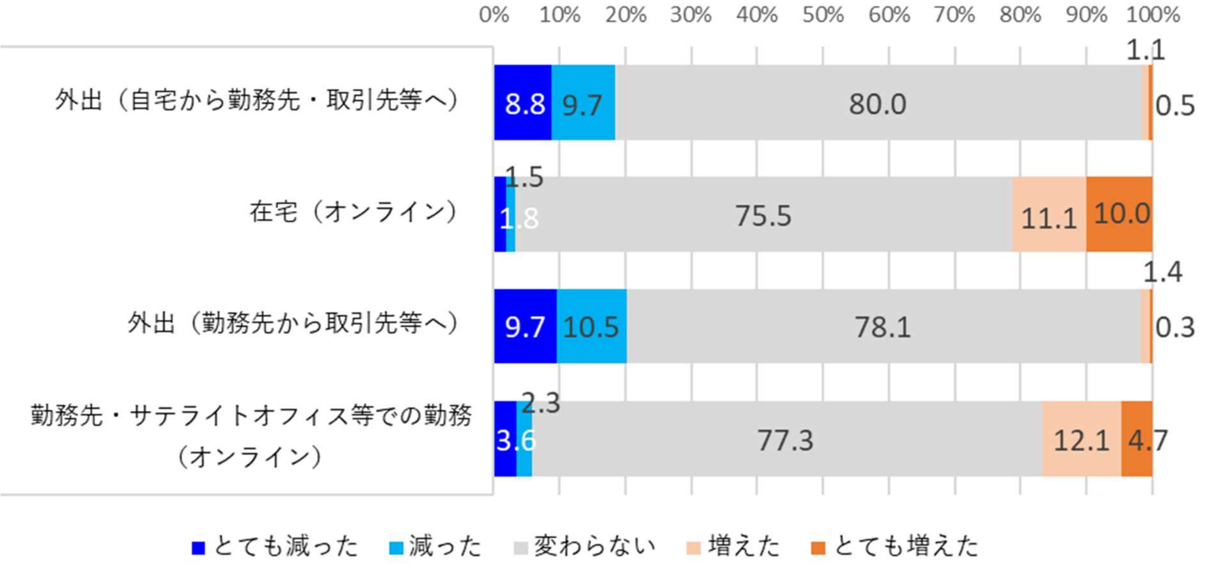
※その他就業者：上記以外の就業者（その日勤務先に行かず、在宅勤務もしていない就業者）

5. 都市における人のくらし

○　三大都市圏・地方都市圏ともに仕事での外出頻度は減少し、在宅をはじめとするオンラインでの活動頻度が増加しており、この傾向は三大都市圏でより顕著である。

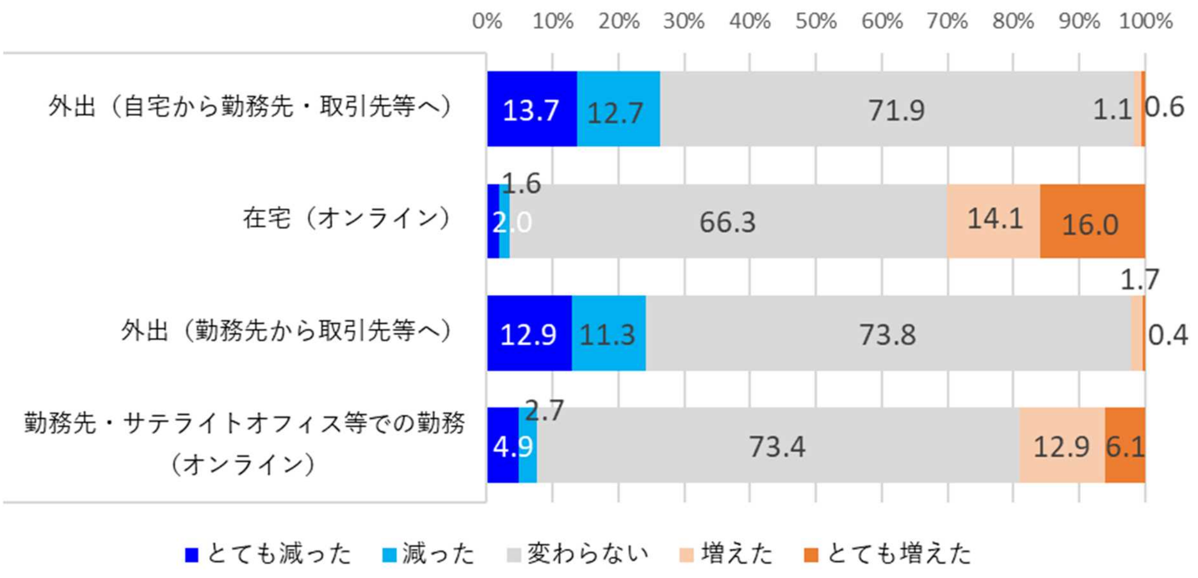
■正規就業者の仕事に関する活動実施頻度の変化(新型コロナ感染症流行前と調査時点の比較)
（実施頻度が変化した人の割合：%）

全国

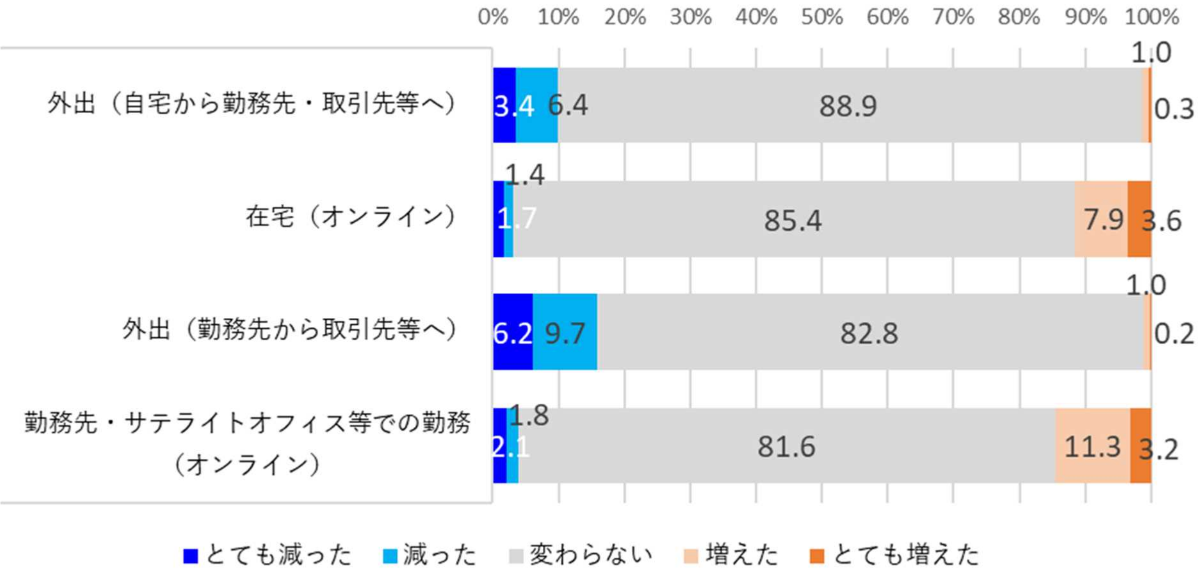


※四捨五入の関係で 100%にはならない場合がある

三大都市圏



地方都市圏

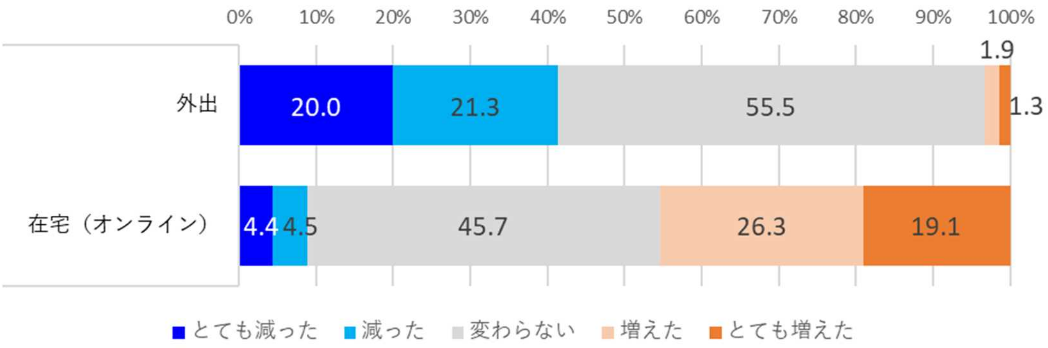


※四捨五入の関係で 100%にはならない場合がある

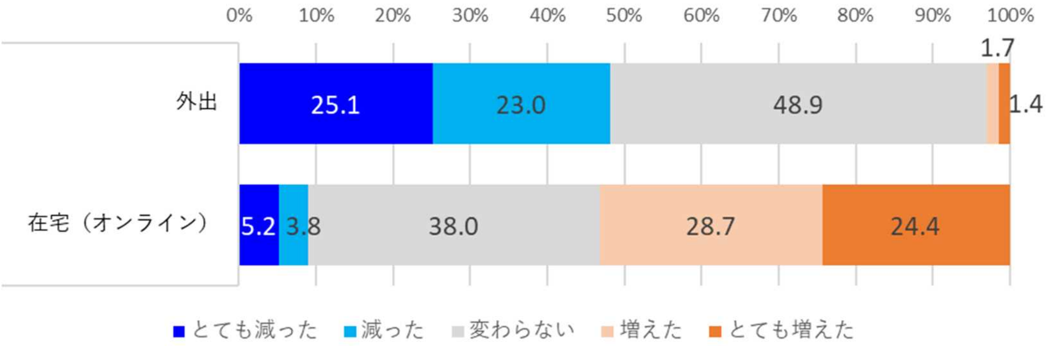
○　三大都市圏・地方都市圏ともに３割以上が学業での外出頻度が減少し、在宅（オンライン）での活動頻度が増加しており、この傾向は三大都市圏でより顕著である。

■学生(18~22歳)の学業に関する活動実施頻度の変化(新型コロナ感染症流行前と調査時点の比較)（実施頻度が変化した人の割合：%）

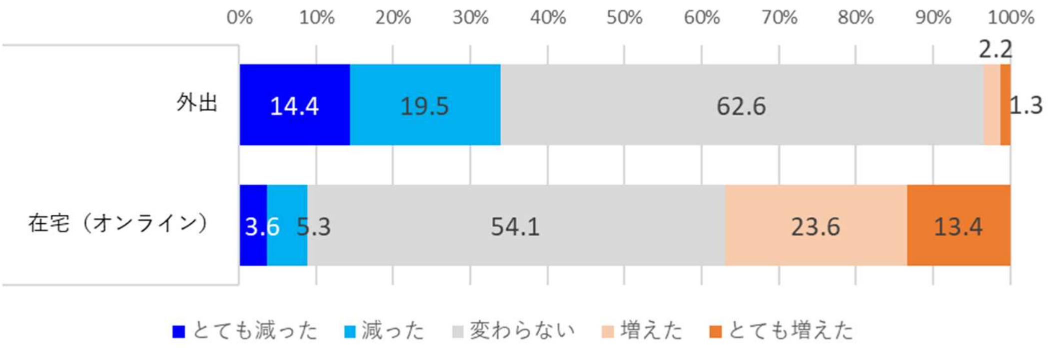
全国



三大都市圏



地方都市圏

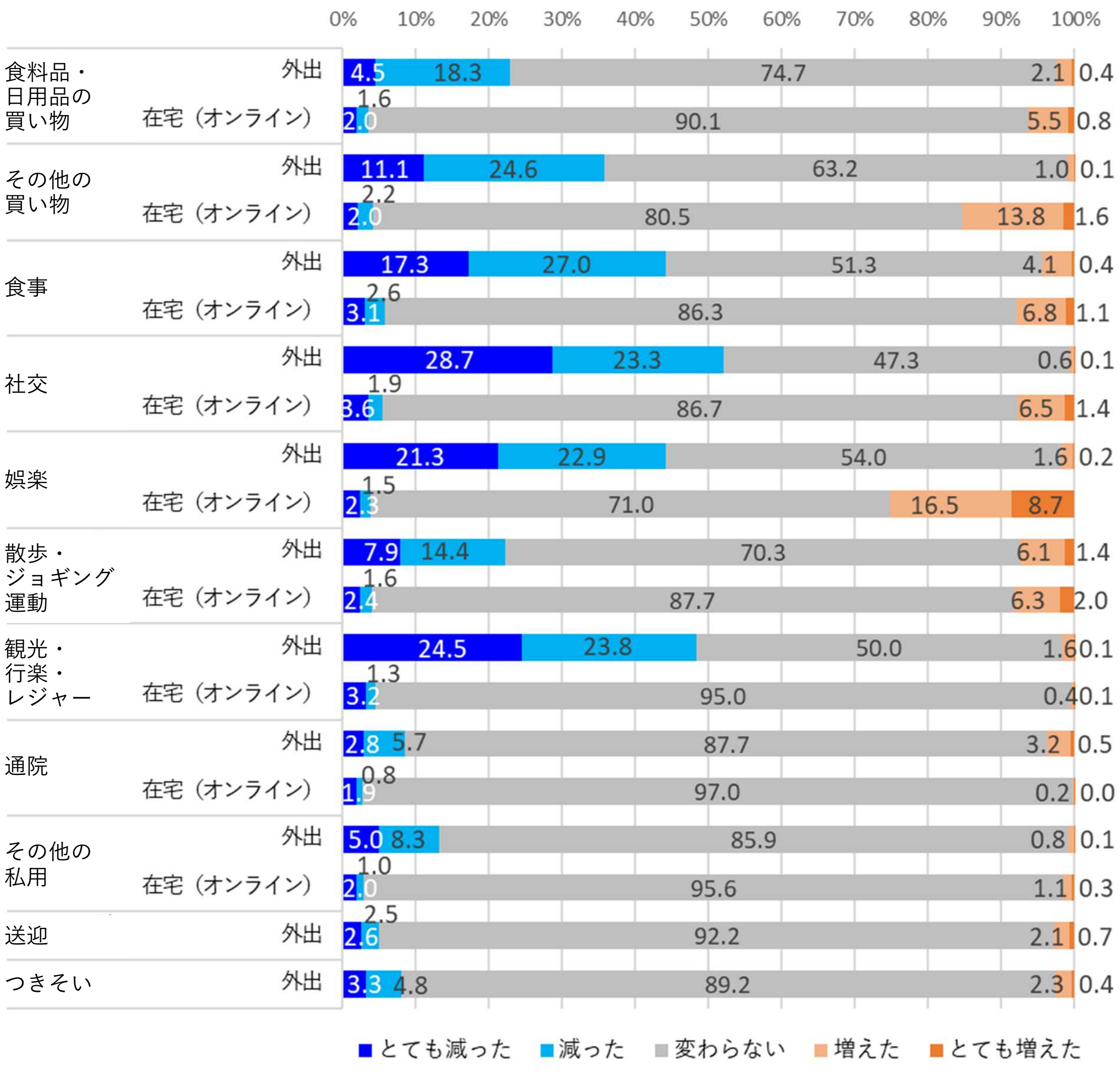


※四捨五入の関係で 100%にはならない場合がある

○　多くの私事活動において外出頻度が減少し、在宅（オンライン）での活動頻度が増加している。特に食事や社交、娯楽、観光・行楽・レジャーによる外出頻度は大きく減少しており、娯楽については在宅（オンライン）での活動頻度が大きく増加している。一方、通院や送迎、つきそいの外出頻度は変化が小さい。

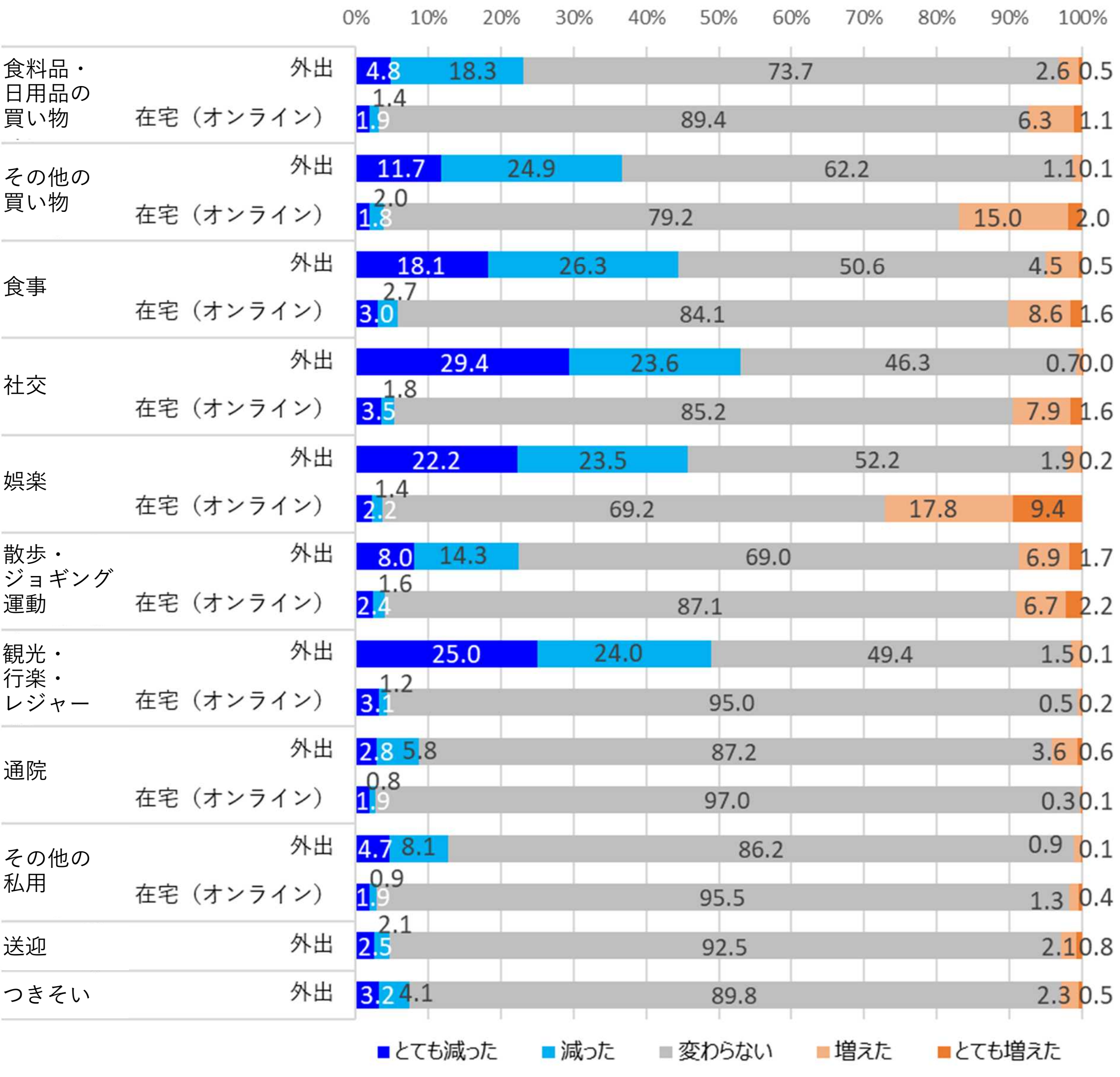
■私事に関する活動実施頻度の変化(新型コロナ感染症流行前と調査時点の比較)
（実施頻度が変化した人の割合：％）

全国



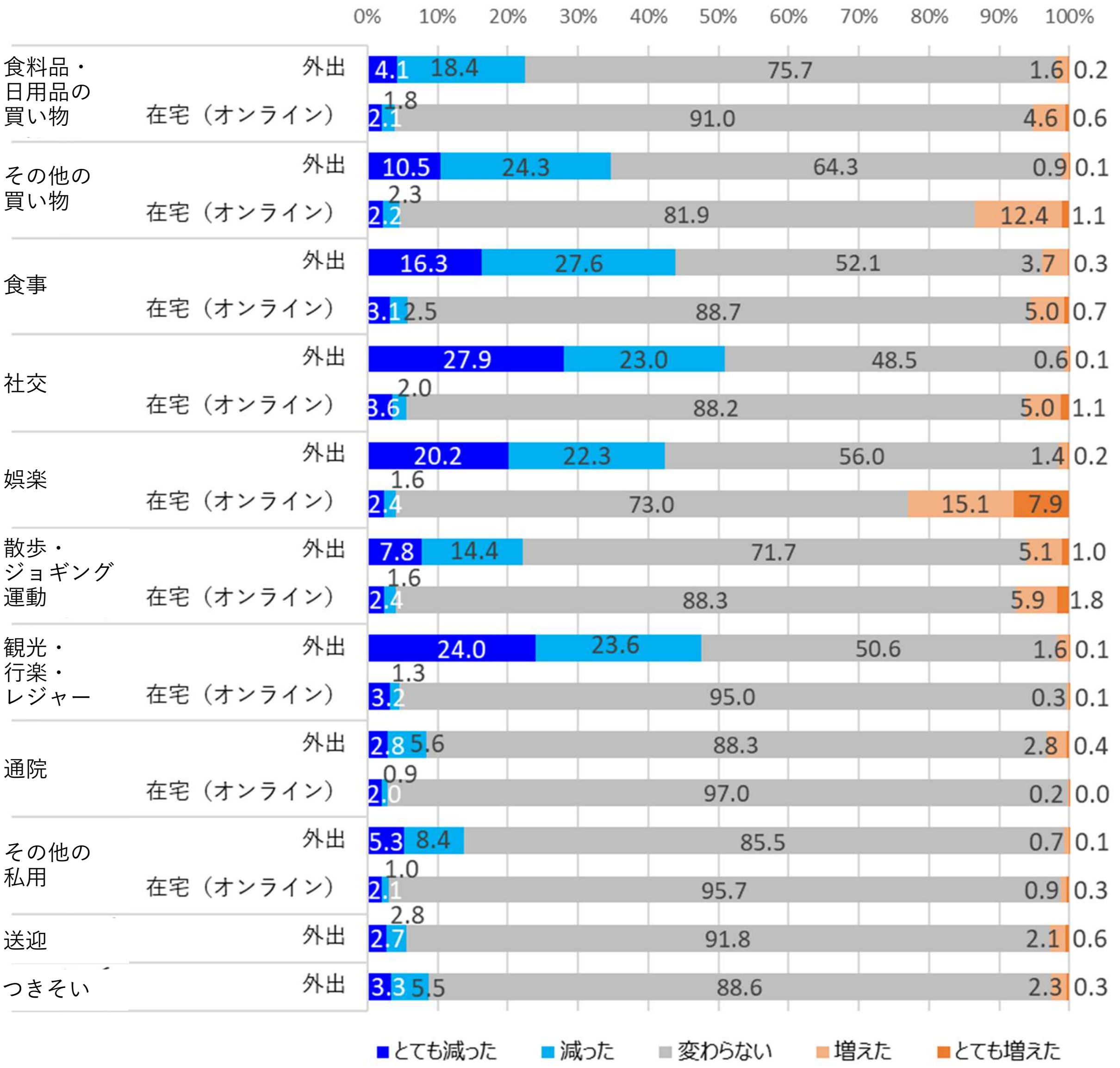
※四捨五入の関係で 100%にはならない場合がある

三大都市圏



※四捨五入の関係で 100%にはならない場合がある

地方都市圏



※四捨五入の関係で 100%にはならない場合がある

用語の説明

○トリップ

人がある目的をもってある地点からある地点へ移動した単位をトリップといい、目的がかわるごとにトリップもかわります。１回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても１トリップと数えます。目的がかわると２番目のトリップとなります。

○トリップ原単位

ある人が１日のうちで目的を持って動く回数。

・グロス集計

１人あたりトリップ数について調査対象者総数（外出者＋非外出者）１人あたりでみたもの。

※今回の集計は全てグロス集計

・ネット集計

１人あたりトリップ数について外出者１人あたりでみたもの。

○目的種類

人が移動するときの目的をさします。本冊子で用いている目的は次のような内容になっています。

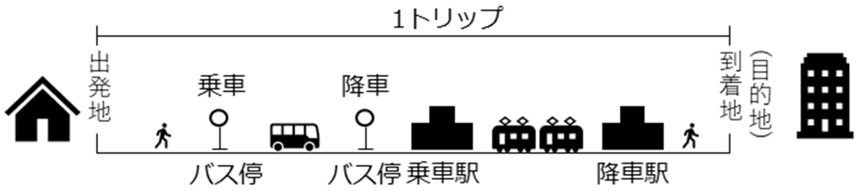
通勤：自宅から勤務先へ
通学：自宅から通学先へ
業務：自宅から業務先へ
　　　勤務先から業務先へ
　　　業務先から勤務先へ
　　　業務先から業務先へ
私事：買い物等の上記以外の目的
帰宅：自宅へ

○代表交通手段

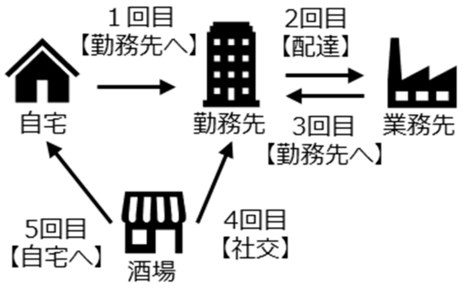
１つのトリップがいくつかの交通手段で成り立っているとき、このトリップで利用した主な交通手段を「代表交通手段」といいます。主な交通手段の集計上の優先順位は、鉄道→バス→自動車→二輪車→徒歩の順となっています。下図のトリップの例では、鉄道が代表交通手段となります。

本冊子での交通手段は「代表交通手段」をさします。

鉄道は、ＪＲ、私鉄、地下鉄、路面電車、モノレール、新交通システムをさします。

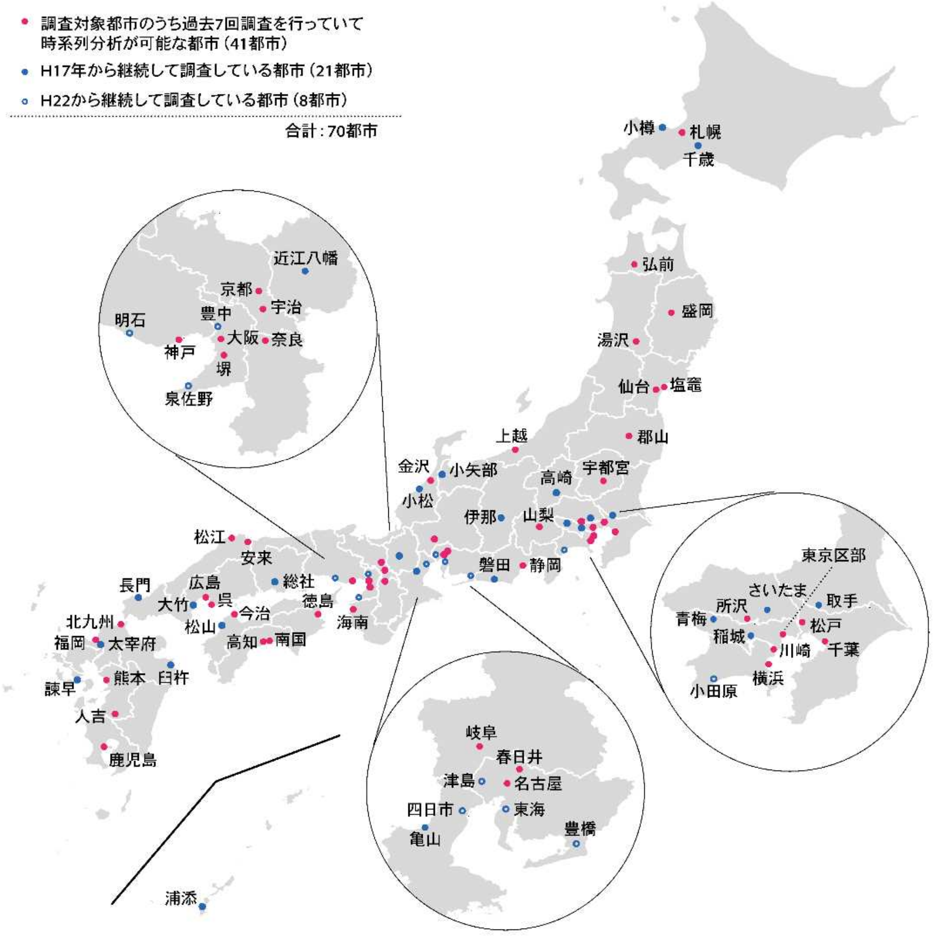


トリップの概念



１日の動き

全国都市交通特性調査　対象都市



<table>
<tr><th colspan="3">都市類型</th><th>調査対象都市</th></tr>
<tr><td>a</td><td rowspan="3">三大都市圏</td><td>中心都市</td><td>さいたま市、千葉市、東京区部、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市</td></tr>
<tr><td>b</td><td>周辺都市※1</td><td>取手市、所沢市、松戸市、稲城市、堺市、豊中市、奈良市</td></tr>
<tr><td>c</td><td>周辺都市※2</td><td>青梅市、小田原市、岐阜市、豊橋市、春日井市、津島市、東海市、四日市市、亀山市、近江八幡市、宇治市、泉佐野市、明石市</td></tr>
<tr><td>d</td><td rowspan="2">地方中枢都市圏</td><td>中心都市</td><td>札幌市、仙台市、広島市、北九州市、福岡市</td></tr>
<tr><td>e</td><td>周辺都市</td><td>小樽市、千歳市、塩竈市、呉市、大竹市、太宰府市</td></tr>
<tr><td>f</td><td rowspan="2">地方中核都市圏
（中心都市 40 万人以上）</td><td>中心都市</td><td>宇都宮市、金沢市、静岡市、松山市、熊本市、鹿児島市</td></tr>
<tr><td>g</td><td>周辺都市</td><td>小矢部市、小松市、磐田市、総社市、諫早市、臼杵市</td></tr>
<tr><td>h</td><td rowspan="2">地方中核都市圏
（中心都市 40 万人未満）</td><td>中心都市</td><td>弘前市、盛岡市、郡山市、松江市、徳島市、高知市</td></tr>
<tr><td>i</td><td>周辺都市</td><td>高崎市、山梨市、海南市、安来市、南国市、浦添市</td></tr>
<tr><td>j</td><td>地方中心都市圏
その他の都市</td><td>－</td><td>湯沢市、伊那市、上越市、長門市、今治市、人吉市</td></tr>
</table>

注）三大都市圏の周辺都市は、以下の定義で都市類型ｂと都市類型ｃに分けています。

三大都市圏	中心からの距離		
	東京	京阪神	中京
※1 都市類型ｂ	40km 未満	30km 未満	－
※2 都市類型ｃ	40km 以上	30km 以上	全域

調査結果（速報版）について

本資料は、2022 年 11 月時点において、調査結果を速報版として公表するものであり、今後も引き続き調査結果のとりまとめを進め、詳細な結果や確定値を改めて公表する予定です。

精査を踏まえた確定値と速報値は異なる可能性があります。